

# 筑波大学附属図書館 年報 2018 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2018



**LA PRESENTS!**

今夜読む本はもう決めた?  
大学院生がお届けする  
めぐるめく研究の世界

2018.10.1 ▶ 11.11  
monday      sunday

中央図書館

★にてポスター展示中!

書架 Books	PC	書架 Books
書架 Books		
エレベーター トイレ Elevator Toilet	★	PC 書架 Books
3-5階 3-5 floor	ラウンジ Lounge	本館 Main Building

# 目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY  
ANNUAL REPORT 2018

# 18

## C O N T E N T S



1	<b>1 館長挨拶</b>
2	<b>2 トレンド</b> 平成 30 年著作権法改正 ～教育・研究と関連する著作権の制限規定について～
3	<b>3 フォーカス (2018 年度の特徴的な活動・事業)</b> 1) 次世代学習スペース整備検討 ～利用者ニーズへの対応を中心に 2) ラーニング・アドバイザーの活動 ～7年を経過して 3) 障害のある利用者への資料電子化サービスの試行 4) 「つくばリポジトリ」を取り巻くもの 5) 2018 年度筑波大学附属図書館特別展「グローバルに挑む群像 一幕から明治へ」 6) 狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」の修復 7) 図書館システム更新 8) 平成 30 年度大学図書館職員長期研修 (第 50 回) 開催
12	<b>4 資料紹介</b> 農商務省・商工省「工業調査彙報」(復刻版)
13	<b>5 職員の活動</b> 1) オープンアクセスリポジトリ推進協会への出向を振り返って 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
16	<b>6 トピックス</b> 1) サービス・活動 2) イベント・セミナー・授業 3) 展示 4) 見学・来訪者 5) オリエンテーション・講習会 6) 研修・シンポジウム 7) 会議 8) 研究開発室
21	<b>7 メディアにみる附属図書館</b> 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 筑波大学附属図書館の刊行物 3) 筑波大学出版会の刊行物 4) 出版・放映・web 上に掲載された所蔵・公開資料
23	<b>8 附属図書館ボランティアの活動</b>
24	<b>9 組織図・歴代図書館長</b>
25	<b>10 統計</b>

### 表紙写真

上：南側から見た中央図書館

下：ラーニング・アドバイザー (LA) 企画展示「今夜読む本はもう決めた？」  
大学院生がお届けするめくるめく研究の世界」

### 裏表紙写真

上：医学図書館1～2階吹き抜け

狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」修復の様子

中：体育・芸術図書館 オリンピック関係資料展示ケース

新しくなったTulips Searchの画面

附属図書館キャラクター・がまじゃんぱー

下：図書館情報学図書館のティディバア・じろう

図書館情報学図書館 展示「暦を読む 第2期」

## 館長挨拶

中央図書館 エントランス



副学長(企画評価・学術情報担当)・附属図書館長

## 阿部 豊

皆様のお手元に、「筑波大学附属図書館年報2018」をお届けいたします。どうか宜しくご高覧下さい。

筑波大学は、明治5年に創設された師範学校に始まり、東京高等師範学校等を経て、戦後開学された東京教育大学を前身校として昭和48年に開学しました。附属図書館は、1899(明治32)年の図書係事務から始まり、今年で120年の歴史を有しております。300万冊におよぶ膨大な蔵書や貴重図書などの印刷書籍だけでなく、様々な電子資料を選定・収集・整理・保存するとともに、総合図書館として機能する中央図書館ならびに医学図書館、体育・芸術図書館、図書館情報学図書館、東京キャンパスにある大塚図書館の4つの専門図書館を含む全5館という全国有数の規模を有して、学習や教育や研究に必要な施設・設備ならびに人的支援サービスを提供いたしております。

一方、インターネットの普及やスマートフォンなどを利用した個人レベルでの電子情報利用の爆発的な増加など、「情報環境」を取り巻く状況は、激変いたしております。附属図書館の役割も、このような情報通信技術の劇的変化により、大きく影響を受けております。伝えたいコンテンツの伝達手段は、従来の「印刷物」による情報から、電子データによるコンテンツへと、大きく変遷しつつあります。大学における、「学術情報」の分野におきましても、これまで紙の情報に限定されてきたコンテンツの利用手段に対して、デジタル化したデータやコンテンツならびにそれらを2次加工したものを、E-learning教材として使用するなど、情報の取扱いには大きな展開がありました。

従来、学術文献を利用するためには、図書館を訪れ、冊子体の書籍を検索し、必要な論文が見つければ、コピーを取る、という作業を行ってまいりました。いまや電子ジャーナルが整備されている環境があれば、学術論文の調査は、研究室のPC上で行うことができます。見つかった論文は、その場で直ちに電子情報としてダウンロードできます。電子化したことにより検索が容易になり、利便性が格段に向上し、研究の生産性が大幅に向上したとされております。電子ジャーナルが、本格的に普及したのは、ここ10年程度のことですが、筑波大学においても、その研究環境を大きく変えることになりました。

しかしながら、それらのコンテンツは、当然ですが、貴重な知財であり、法によって保護される対応となっております。大学教育におけるデジタルコンテンツの使用と著作権とのかかわりについては、

2019(平成31)年1月1日より、著作権法の改正が施行されました。教育のための電子コンテンツの配信に対して、法の適用が実質的に厳格化される可能性があります。

「オープンアクセス」とは、『広義には学術情報』を、『狭義には査読つき学術雑誌に掲載された論文』を、インターネットを通じて誰もが「無料」で閲覧可能な状態に置くこととされております。オープンアクセスは、大手出版社による学術雑誌市場の寡占と電子ジャーナルの価格高騰という課題に対処する一つの解決策と期待されておりますが、様々な課題があることも事実です。オープンアクセスの延長線上において、あらゆる人々が学術的研究や調査成果などの情報にアクセスしたり、研究活動に多様な方法で参加したりできるようにする「オープンサイエンス」という概念も提唱されており、研究成果や研究データのオープン化が、研究活動の活性化・高度化あるいは新しい知の創出に資するものとされています。

筑波大学は、「開かれた大学」、「これまでにない新しい大学を実現する」という基本理念の下に、国際的に卓越した研究を実践するとともに、豊かな人間性と創造的知力を蓄えた人材を育成することを目標としております。筑波大学附属図書館は、それらを実現するための学習や教育や研究活動を支援する「学術情報基盤」を提供いたします。さらに、貴重な所蔵資料の公開・展示・講演、生涯学習の機会の提供、本学からの知的成果物の蓄積と機関リポジトリを通じた発信を行うことによって、地域社会・国際社会に貢献し、国内外の図書館や関連組織と連携・協力するとともに、オープンアクセスにも対応する「学術情報流通の拠点」の機能を有するものとなっております。

筑波大学附属図書館では、昨年度、文献複写等料金の共通経費化や学外者貸出利用証のweb申請受付を開始するなど、それらの「使命」を実現するため、ボランティアの方々とともに、利用者の方々のニーズを受け止め、利用者の方々が附属図書館を十分にご活用できるよう日々努力いたしております。

本冊子が、利用者の方々が筑波大学附属図書館を十分にご活用されるための一助となることを願っております。

## 平成30年著作権法改正 ～教育・研究と関連する著作権の制限規定について～

### 1.はじめに

大学における教育・研究においては、多くの著作物の利用がなされており、著作権法に配慮する必要があります。著作権法はたびたび改正がなされており、平成30年(2018年)にもいくつかの著作権法関係の改正が行われました。ここでは、平成30年5月18日に成立し、同年5月25日に公布された「著作権法の一部を改正する法律」(平成30年法律第30号)による改正事項のうち、教育・研究にかかわる著作権の制限規定に関連するものを中心に紹介します。

著作権法は、著作権の及ぶ範囲を比較的包括的に定めており、たとえば複製・翻案、公衆送信(インターネット上へのアップロード等)、公の上映等が含まれます。著作権が及び行為は、権利者の許諾を得ずに行くと、原則として著作権侵害が成立します。

これに対し、著作権の及ぶ範囲を制限するのが著作権の制限規定であり、著作権の及ぶ行為であっても、制限規定の要件を満たす範囲内であれば、利用者は権利者の許諾なく著作物を利用することができます。著作権の制限規定は、たとえば引用、私的複製、非営利上映等、従来、比較的個別具体的に定められてきましたが、今回の改正においては、「柔軟な権利制限規定」が整備され、また、教育に関連する制限規定の内容が拡充されました。

### 2.教育関連の制限規定の拡充

平成30年著作権法改正では、教育の情報化に対応した権利制限規定等の整備が行われ、35条の改正がなされました。著作権の制限規定の一つである35条は、学校その他の教育機関における著作物の利用を一定の要件の下で許容する規定であり、平成30年改正前は、授業の過程における著作物の使用について、複製(コピー)や、遠隔地にある複数の教室間で中継して同時に行う合同授業のための公衆送信が認められていました。

今回の改正では、遠隔合同授業のための同時送信以外の公衆送信についても広く対象とすることとなり、たとえば授業用に教員が他人の著作物を用いて作成した教材の公衆送信や、オンデマンド授業(異時授業)のための公衆送信、送信側に教員のみがいるスタジオ型のリアルタイム配信授業のための公衆送信を行うことが可能となりました。

ただし、新たに権利制限の対象となる公衆送信については、大学等(「教育機関を設置する者」)が、相当な額の補償金を著作権者に支払わねばならないことになりました(改正前に無償で行うことができた複製等は、無償が維持されます)。なお、この35条に関連する改正が施行されるのは、公布の日から3年以内とされています(その他の改正事項

については、平成31年1月1日が施行期日となっています)。

筑波大学で利用されているmanabaへのアップロードは、基本的に公衆送信に該当すると考えられます。35条改正後は、他人の著作物を用いて作成した教材等をmanabaへアップロードすることが可能となります。ただし、改正前と同様、授業の過程で用いるために「必要と認められる」限度での利用に限定されており、「当該著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合」は権利制限の対象外となる点に留意してください。

### 3.柔軟な権利制限規定の整備

平成30年著作権法改正において注目されるのが、「柔軟な権利制限規定」の導入です。権利者の利益を通常害さない行為類型について「柔軟性の高い権利制限規定」が設けられるとともに、権利者に及び得る不利益が軽微な行為類型について「相当程度柔軟性のある権利制限規定」が設けられました。これにより、著作物に表現された思想又は感情の享受を目的としない利用(非享受利用)(30条の4)や、電子計算機における著作物利用に付随する利用等(47条の4)、新たな知見・情報を創出する電子計算機による情報処理の結果提供に付随する軽微利用等(47条の5)が許容されることとなり、たとえば情報解析のための著作物利用等がより行いやすくなりました。

### 4.参照文献・ウェブサイト

平成30年著作権法改正についてより詳しくは、下記の文献やウェブサイト等を参照してください。

- 文化庁「著作権法の一部を改正する法律(平成30年法律第30号)について」  
<[http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/h30\\_hokaisei/](http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/h30_hokaisei/)>
- 文化庁著作権課「著作権法の一部を改正する法律(平成30年)について」  
コピライト692号(2018年12月号)22頁
- 水田功「著作権行政をめぐる最新の動向について」コピライト691号  
(2018年11月号)2頁
- 井上由里子「教育ICT化推進と著作権の権利制限—著作権法35条改正について」Law&Technology81号(2018年)1頁
- 文化庁長官官房著作権課「平成30年著作権法改正の概要」  
Law&Technology81号(2018年)47頁
- 井上由里子「ICT活用教育と著作権の制限」ジュリスト1525号  
(2018年)32頁
- 秋山卓也「柔軟な権利制限規定の整備(平成30年著作権法改正)」  
ジュリスト1525号(2018年)38頁
- 上野達弘「平成30年著作権法改正について」『年報知的財産法  
2018-2019』(日本評論社・2018年)1頁

(図書館情報メディア系准教授 村井 麻衣子)



### 1. 次世代学習スペース整備検討～利用者ニーズへの対応を中心に

#### 1. 次世代学習スペース整備 検討タスクフォースの取り組み

大学図書館にラーニング commons が導入されてから、図書館の役割が大きく変化し、さらには、多様な学びのスタイルに対応することが求められています。そのため、附属図書館では「学生の新しいタイプの学習スタイルに対応した次世代学習スペースの整備」を第3期中期目標中期計画の中に掲げ、ラーニング commons 次の世代の学習スペースについて検討を行っています。

平成30年度は、教員と図書館スタッフを構成員とする次世代学習スペース整備検討タスクフォース(以下、タスクフォースという)を設置し、将来へ向けた指針となるキャッチコピーと整備を確実に進めるためのロードマップを策定しました。手始めに、タスクフォース設置と同時に図書館スタッフヒアリングを行い、6月には利用者ニーズアンケートを実施し、約800件の回答を得て現状を把握し、利用者から当館に求められていること、大学や社会の状況から果たすべき役割等について分析を行いました。

#### 2. 附属図書館へのニーズ分析

利用者ニーズアンケートからは、学習環境への要望というよりは、居場所としての快適な環境を求める意見が多く、大学における図書館の存在が、学生生活の拠点ともなっていることがうかがえました。また、PC環境の更なる充実を求める声や、学習スタイルや利用者の多様化に合わせた「静」と「動」の快適なゾーニングを求める意見が浮き彫りとなりました。

ラーニング commons の定着とともに、従来型の自主学習スタイルでの利用にも変化が起きており、自宅にいるような感覚で、快適に過ごせるような長時間滞在型の利用を求める傾向があります。飲食スペースの増設やルールの緩和、空調・トイレ・照明・防音・セキュリティ整備等々、利用者からの要望は、図書館をフル活用するためのより具体的なものとなっています。これらを受けて、タスクフォースの教員からは、「図書館は、筑波大学のリビングルームのようである」というご意見もありました。

さらに、スタッフヒアリングによる意見としても、自館を熟知しているがゆえに、図書館の施設設備や運営体制の改善についての意見が多く、グローバル対応などの日常的に実施してはいるものの、あまり図書館として表に見せていないサービスの充実についてなどの意見もありました。

また、筑波大学の「開かれた大学」を強みとして、地域貢献・社会貢献、国際貢献、多様化社会への対応へも重要案件として、

取り組んでいくことを再認識しました。

#### 3. 次世代へのキャッチコピーとロードマップ

利用者ニーズ等の分析を受け、タスクフォースの下において、図書館スタッフで構成する学習支援推進ワーキンググループでは、8月頃より11月にかけて、約70件にわたる企画立案を行いました。障害のある利用者への基礎的環境整備、多様な利用スタイルのためのゾーニング、全学計算機を含めたPC環境の充実、快適な図書館空間、分かりやすい資料の再配置、広報・サイン計画等々、現場で利用者 と接するスタッフのアイデアによる様々なプランが挙げられました。

さらに整備実施に関する優先度や実現度を精査し、詳細なヒアリングを重ねて、将来に向けた整備事業のキャッチコピー(下図)とロードマップを仕上げました。その中でも優先事項として、障害のある利用者への基礎的環境整備や学習のためのPC環境の更なる整備を喫緊の課題として取り上げることとしました。合わせて、館内開催の研修会・説明会において、関連事項を取り上げ、スタッフの共通認識を図ることも試みました。

次年度以降は、このロードマップに沿って、関係者と連携しながら、一つ一つ整備を進めていく予定です。

キャッチコピーは、5つのAから成る言葉を掲げ、Academic、Accessible、Active、Autonomous、Attractiveと、附属図書館が次世代の学習スペースに組み込みたい要素を見える化しました。

**A. Library** あ、らいばらいい ～筑波大学附属図書館は5つの‘A’

- Academic:** 世界有数の 学術図書館
- Accessible:** 来館者をえらばない アクセシブルな図書館
- Active:** 未来に向けて進化する 活きる図書館
- Autonomous:** 個性豊かに 自立を促す図書館
- Attractive:** 筑波大学オリジナルの 魅力的な図書館

筑波大学附属図書館が目指す5つのA

#### 4. 筑波大学のプレゼンス向上への貢献

図書館は、大学の学術情報基盤とされていますが、さらに大学の機能の要として活用され、「大学最大の見せ場」「開かれた大学の開かれた図書館」「大学と世界をつなぐ図書館」として、国内外に向けてPRを重ね、将来に向けて筑波大学のプレゼンス向上の一環となるため、貢献できれば何よりと考えています。

(アカデミックサポート課長 村上 康子)

### 2.ラーニング・アドバイザーの活動～7年を経過して

#### 1. 活動7年目を迎えて

中央図書館で活動するラーニング・アドバイザー(LA)は、2012年4月の正式運用から数えて、ちょうど7年を経過しました。この機会に、現LA担当職員として、LA活動の柱である「学生サポートデスク」と「LA企画」の現況について、改めてお伝えしたいと思います。

#### 2. 学生だから応えられることがある： 「学生サポートデスク」

中央図書館ラーニング・スクエアに設置された「学生サポートデスク」では、大学院生であるLAが学生の皆さんからの様々な質問・相談に対応しています(開設期間：学期中平日14-19時)。

開設当初からメンバーを入れ替えつつ、常時6～8名のLAが交代でデスク勤務を行っていますが、LA全員が“相談者との対話を通して一緒に考える(答えを一方向的に教えることはしない)”という方針を大切にしています。また、相談内容に制限を設けず、“どんな質問でもまずは聞いて受け止める”という姿勢を重視しています。

質問内容は、大学生にとっての最重要事項である「学習・ライティング」に関するものと、その学習に欠かせない「PC関連(ソフトウェア含む)」に関するもので、全体の約70%を占めています。(図1)なお、「その他」は、実際には大学生の日常に関するものが多く、研究室での過ごし方や履修・進路に関する相談等、多岐にわたっています。特に、授業や学習研究方法・大学生生活に関する質問は、図書館職員では対応が難しく、相談者と同じ学生であるLAだからこそ、自身の体験に基づくアドバイスが可能となるものです。また、近年は留学生からの質問が増加傾向にあり、研究発表や留学等で普段から英語力を磨いているLAの活躍が益々期待されています。

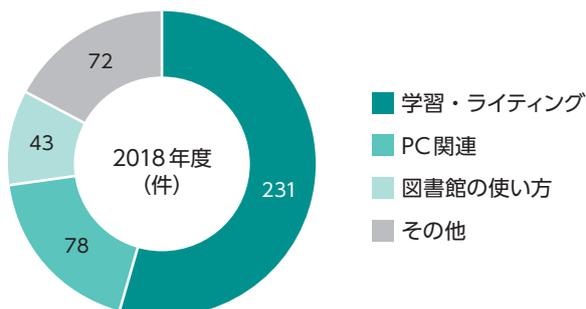


図1 学生サポートデスク相談内容別件数

#### 3. 学生目線を大切に： LA企画(セミナー・展示)

LAは「学生サポートデスク」で多くの相談者の声を直接聞いているため、学生のニーズにとっても敏感です。その利点を生かし、“こんなイベントがあったらいいな”という学生目線で発案されるのがLA企画です。普段はサポートデスクで個別勤務しているLAですが、月に1回の全体ミーティングを活用し、図書館職員とも協働しながら、様々な企画を成功させてきました。(表1)

2012	●[Learning Adviser × Booklogの本棚]展示
2013	●[Learning Adviser × Booklogの本棚]展示
	●学園祭企画・図書館オリエンタリング「大学図書館 本の樹海」
2014	●TGN共同企画「筑波大学No.1プレゼンターからプレゼンテーションの極意を盗む」セミナー
	●文献管理しナイト!セミナー
2015	●社会科学系院生による量的・質的研究法ビギナー講習会
	●伝わる研究のアウトプット術セミナー
2016	●申請書で伝える!あなたの研究セミナー
	●レポートの書き方セミナー
2017	●申請書で伝える!あなたの研究セミナー
	●レポートの書き方セミナー
2018	●ストレスフリーな卒論術セミナー
	●「今夜読む本はもう決めた?大学院生がお届けするめくめく研究の世界」展示
	●今からでも間に合う!卒論セミナー!!

表1 これまでのLA企画(展示・セミナー)

レポートや論文の書き方に関するセミナーは特に人気があり、ほぼ毎年開催しています。LAが自分の文章作成体験を基に、「人にわかりやすく伝えるコツ」や、「自分なりの執筆手順」を提示しながら、参加者にも問いかける、というスタイルが支持されています。また、おすすめ本紹介展示では、カラフルで目をひくPOPを自作し、Web書評サイト(Booklog)と連動する等、工夫を凝らしている点が好評を得ています。

今後もLAは学生の皆さんに喜んでもらえる企画を、どんどん実現していくつもりです。どうぞご注目ください!

\*これらLA企画は、図書館広報紙Prismでダイジェスト版を発行していますので、見逃した方は以下URLからご覧ください。  
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/la#more>

(ラーニングサポート係長 渡邊 朋子)

## 3.障害のある利用者への資料電子化サービスの試行

### 1. 新しい取り組み

障害のある利用者への資料電子化サービスとは、視覚障害等のある利用者のために、教科書等をPDFやテキストデータにして提供するサービスのことで、OCRソフトを使い、紙の資料をスキャンして文字データを作成し、誤って変換された文字を校正する作業を行います。利用者は、PC等で、拡大したり、白黒反転させたり、読み上げソフトを使い音声化して利用します。

このサービスは、学内の障害学生支援部局であるDAC(ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア)センターアクセシビリティ担当で、ピア・チューターの支援活動として実施されています。センター作成のデータは、これまで依頼者の個人利用に留まっていたが、図書館が利用者の求めに応じ、資料電子化を行い、データを保存、蓄積、提供することで、複製の重複による無駄を省き、障害のある利用者は、より多くの資料を利用することが可能となります。

2016年度、まずは先行して実施している他大学の図書館を訪問し、情報収集を行いました。この取り組みを進めるには、誰が作業をするか、どこに保存するか、どうやって対象者だけに提供するか、この3点を解決する必要がありました。解決策を求め、試行錯誤の結果、1年かけてアクセシビリティ担当との連携の枠組みを作ることができました。



校正作業の様子(学内ワークスタディとピア・チューター)

### 2. 概要

主な作業は、アクセシビリティ担当のピア・チューターが担当することになり、新たにLS (Library Support) チームが編成されました。保存・蓄積・提供方法は、筑波大学学習管理システムmanabaを利用することで解決しました。当初、manabaは授業でしか利用できないとあきらめていましたが、提供元の教育クラウド室で話を伺い、授業以外の利用も可能と判明し前に進むことができました。利用対象者は、DACセンターに資料電子化の利用登録申請を行い、許可を受けた者のみとし、manaba

へのメンバー登録等は図書館が行うこととしました。図書館は所蔵調査や出版社へのデータ提供可否の問い合わせ、データの保存・提供等を行い、作業場所は、中央図書館の対面朗読室1を使用し、OCRソフトや機器類は、両組織で準備しました。

2017年4月、対象資料は図書のみ、利用対象者を学群生2名に限定し、試行を開始しました。春学期の終了時点で作業の遅れが問題となり、その後、作業分担を見直し、LSチームが担当していたスキャンから末校正テキスト作成までの作業を図書館で学内ワークスタディ<sup>1)</sup>を活用する形に変更しました。LSチームの中心メンバーとは、改善に向けた話し合いを何度も行いました。



DACセンターアクセシビリティ担当との打合せ風景

2018年4月からは、利用対象者を限定せず雑誌論文も対象としました。利用登録者は9名(学群生6名、大学院生3名)、そのうち実際に依頼があったのは学群生4名でした。作業スピードを上げるために、出版社への問い合わせを控え、学内ワークスタディが簡易な校正作業を行い、LSチームは図表の説明と最終校正を行うように変更しました。また、作業半ばのデータでも概略を把握するために有効と考え、透明テキスト付PDF、簡易校正済テキスト、校正済テキストの3種類について、製作時点で段階的にmanabaに登録し提供することにしました。

### 3. 試行結果

年度	形式	提供件数		平均所要日数	
		図書	雑誌論文	図書	雑誌論文
2017	PDF	5件	—	20日	—
	校正済テキスト	9件	—	124日	—
2018	PDF	9件	9件	10日	6日
	簡易校正済テキスト	4件	8件	24日	9日
	校正済テキスト	4件	8件	98日	23日

※作成したPDFは透明テキスト付PDF

2年間の試行を経て、2019年4月からは本実施となります。サービス体制を整え、アクセシビリティ担当との連携を密にし、今後も作業の迅速化を図っていく予定です。

(アカデミックサポート課主幹 中村 洋子)

注1) 学生に学内業務に従事させ、職業観を育むとともに経済的支援を図る事業

## 4. 「つくばリポジトリ」を取り巻くもの

2006年3月、国内最大級の機関リポジトリとして「つくばリポジトリ」が誕生し、研究・教育成果の発信を行ってきました。ここでは、学術情報を取り巻く急速な変化に対応すべく進化し続ける「つくばリポジトリ」と、その周辺について紹介します。

### 1. 「つくばリポジトリ」の歩み

「つくばリポジトリ」は、電子図書館システムの蓄積をもとに、国内最大級の機関リポジトリとして誕生しました。公開時のコンテンツは、博士論文と紀要論文を中心に11,122件でしたが、公開後は学内の研究者の方々から論文の提供を受け、学術雑誌掲載論文の登録数が2009年4月には2,000件を突破、さらに2011年2月には3,000件を越えました。また2013年4月には、学位規則の一部改正により博士論文のインターネット公表が義務化されたことにより、リポジトリへの博士論文登録件数が増加しました。

2015年11月、研究成果のオープンアクセス化の流れを受け、「筑波大学オープンアクセス方針」を採択、学内の教育研究成果を収集・発信し、本学の認知度向上を目指してきました。そして、2016年3月には「つくばリポジトリ」公開から10年を迎え収録コンテンツ数は37,000件を超えました。学術雑誌掲載論文については「オープンアクセス方針」決定後、登録率が増加し、2018年3月には本学の全コンテンツのうち、その占める割合は約20%となりました。また、2018年には本格的な学内紀要刊行状況調査を実施し、紀要の登録率は70%を超えました。その後、収録コンテンツは順調に増加し、2019年3月末現在48,105件となり、本学の研究成果を世界に発信し続けています。その間、リポジトリへの理解を深めるため各種セミナー等の開催や、Open Access Week 大型ポスターの掲示等も実施しました。

### 2. 学内システムとの連携

2017年度、学術情報部と研究推進部の協同により「オープンサイエンス推進に向けた検討タスクフォース」を設置し、本学における統合的DBの検討が行われ、研究者総覧(TRIOS)とつくばリポジトリの連携が強化されました。

つくばリポジトリへの学術雑誌掲載論文の登録調査対象としては、2017年度まではWeb of Scienceから本学教員の論文を抽出していましたが、2018年度からはTRIOSとの連携を受けて、TRIOS掲載論文から抽出する方法に変更しました。2018年度は、調査した論文2,102件のうち、734件についてつくばリポ

ジトリに登録しました。また、TIROS業績へのリポジトリハンドル付与については、TRIOSの改修により3,000件以上実施し、システムの連携がさらに進みました。

### 3. オープンアクセス専門委員会の設置

2018年7月、附属図書館における学術情報のオープン化に関する学内外における動向を踏まえ、オープンアクセス推進のさらなる取り組みを調査審議することを目的とし、「附属図書館オープンアクセス専門委員会」が設置されました。委員会は、全学的なオープンアクセス推進の観点から、11名の関連する教員および職員により構成され、オープンアクセスを取り巻く状況等について共有を図っています。今年度の活動として、講演会の実施を検討しました。

### 4. 講演会の開催

現在のオープンアクセスに係る取組みを俯瞰し、課題・論点等の見直しや確認を行い、本学における今後のオープンアクセスを推進するための取組みを考えることを目的とし、2019年2月18日(月)附属図書館主催・JPCOAR後援による講演会「オープンアクセスの今と未来」を開催しました。

講演会では、オープンアクセスの理念や粗悪学術雑誌に関する注意喚起、オープンアクセスを促進する新しいリポジトリシステム、オープンサイエンスをサポートする研究データ管理のトレーニングツール等について、3名の講師による講演が行われました。学内外から、研究者、図書館職員等89名の参加があり、活発な質疑応答、意見交換が行われ盛況のうちに終了しました。

当日の関係資料は、つくばリポジトリに登録されています。

[https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_opensearch&index\\_id=7272](https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=7272)



これからも、「つくばリポジトリ」は教育研究成果の発信を続け、オープンアクセスの推進を支援するため、その役割を果たしていきます。  
(情報企画課主幹 大久保 明美)



## 5.2018年度筑波大学附属図書館特別展 「グローバルに挑む群像 —幕末から明治へ—」

### 1. 特別展概要

2018年度の特別展は、「グローバルに挑む群像 —幕末から明治へ—」と題して、10月29日(月)から11月30日(金)まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

今年度の特別展は、附属図書館と人文社会系との共催により開催し、山澤学准教授の企画・立案のもと、附属図書館研究開発室プロジェクトの一つとして位置づけ、附属図書館職員9名のワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して、滿150年の年に当たり、内閣官房では「明治150年」に向けた関連施策を推進してきました。本特別展は、幕末・維新期から明治前半期を中心に、グローバルな世界に挑戦した人々の姿を附属図書館所蔵の貴重資料から取り上げ日本近代のあり方を考えていくもので、「明治150年」を記念する、筑波大学における取り組みの一つとして開催されたものです。

### 2. 展示構成

展示本編は3部構成となっていますが、プロローグ「日本近代、グローバルな世界への挑戦」では、日米和親条約締結の年に出版された『外蕃容貌図画』を展示し、五大州各国の人々の容貌・衣装などをパネルで紹介しました。

第1部「条約交渉と昌平坂学問書の儒者」では、幕末の条約交渉に関する資料として、師範学校創設の地となった「昌平坂学問所」の儒者と条約交渉への関わりをうかがい知ることができる資料を紹介しました。また、『横浜明細図』や『横浜案内絵図』などからは、条約によって開港された横浜港の様子などもわかります。

第2部「動乱を生きた人びと」では、安政江戸地震から、安政の大獄、桜田門外の変、八月十八日の政変、長州征伐、天狗党の乱を経て、大政奉還から戊辰戦争に至るまで、開国による動乱の時代を生きた人びとを「幕末関係記録」や「長州藩士記録」を中心に取り上げて解説しました。戊辰戦争の様子を記録した『野州軍記』など、当時の様子を知る興味深い資料も数多く、本展示の見どころ満載な部立てになりました。

第3部「明治を拓いた名著」本編では、明治初年のベストセラーとして著名な、『仮名読八犬伝』や『西洋道中膝栗毛』など、現代まで脈々と受け継がれてきた作品を紹介しました。また、コラム「西南戦争と実録本」では、明治維新の立役者でありながら、非業の死をとげた西郷隆盛がかかわった西南戦争に関する資料を紹介し、展示全体では、未公開の資料も含め49点の貴重資料を公開しました。

### 3. 図録

特別展をより理解していただくために、展示資料の解説を中心とした図録を作成しています。図録執筆は、プロローグから第2部までを山澤学准教授(人文社会系)、第3部本編を谷口孝介教授(人文社会系)、コラムを馬場美佳准教授(人文社会系)にお願いしました。また、研究開発室プロジェクトでは、本特別展の開催を機に、山澤学准教授が中心となり「長州藩士記録」「幕末関係記録」を再整理し目録作成を行い、図録に掲載しました。多様なテーマで開催される特別展の図録は、会期終了後にも多くの方々に資料として活用されています。

### 4. 講演会・ギャラリートーク

特別展会期中の11月10日(土)に、特別展の企画・立案者である山澤学准教授による特別講演会を開催しました。幕末から明治、動乱の時代に生きた人々についての興味深い講演と、展示室でのギャラリートークがあり、本特別展への理解を深めることが出来ました。

また、展示室にてギャラリートークは4回開催され、延べ99名が参加しています。特別展開催期間中には、学内外から2,080名が訪れ貴重な資料を観覧しました。



展示室 第1部展示風景

### 5. 特別展Webページ

展示内容に合わせたWebページを作成し、電子版図録や展示資料の紹介を行うほか、SNSを活用し様々な情報を発信しています。2018年度筑波大学附属図書館特別展については、以下のサイトをご覧ください。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2018global/index.html>

(情報企画課主幹(特別展WG主査) 大久保 明美)

## 6. 狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」の修復

筑波大学附属図書館では260万冊を超える資料を所蔵しており、これらの蔵書の中には1872年に開設された師範学校以来の前身校の旧蔵資料も多く含まれています。大学図書館は貴重な資料の保存と公開の責務を担っていますが、資料の状態によっては公開が困難なものも少なくありません。

ここでは、公益財団法人出光文化福祉財団による美術品修復助成を受けて2017～2018年度に実施した狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」保存修復について紹介します。

### 1. 「野外奏楽・猿曳図」について

2000年に東京教育大学附属図書館旧蔵資料の中から、江戸初期狩野派が描いた屏風絵三双が発見されました。その一つが、草体の画風を示した狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」の六曲一双の屏風です。

右隻「野外奏楽図」は、前景に松樹が生え、琴、太鼓、鉦などを囃して舞い踊る人物、そして遠景には山並みが描かれています。また、左隻「猿曳図」には、中央に猿曳、その様子を見物する人物、そして前景には右隻と対になるように松樹が描かれています。いずれも近景でまとめた画面は対角線を意識した構成で、余白を生かした画面構成が伺えます。

狩野探幽は慶長7(1602)年に、孝信の長男として生まれ、16歳で幕府の御用絵師となり、鍛冶橋狩野派を確立し活躍した江戸初期の狩野派の画家です。本学所蔵の屏風には、「探幽齋筆」の落款があることから、制作年代は、「齋書き時代」寛永12(1635)～万治3(1660)年の間と考えられています。

### 2. 修復について

当該資料は発見当初のままであり、各扇ともに料紙の劣化や糊の接着力低下に伴う剥離が著しい状態でした。また、過去において施された補修等による影響で、劣化および変色の状況が異なり、経年による汚れの付着に加え、水濡れによるシミも生じていました。

貴重な資料の保存と公開のためには早急な修復が必要でしたが、大学の経費による修復は目途が立たず、2016年10月に「出光文化福祉財団の美術品修復助成事業」に申請しました。幸いにも修復助成として採択され、2017年4月から狩野探幽筆「野外奏楽・猿曳図」保存修復業務として、事業が開始されることになりましたが、高額な経費については、全額を助成金で賄うことはできず、全体の6割を助成金、2割を図書館経費、残り2割を大学特別経費からの負担とすることに決められました。

修復期間は2年間で、東京の修復工房で作業は行われることに

なり、およそ以下のような工程で進みました。

まず修復前には破損状況、使用材料、作品形態等の調査を行い、損傷画面等のカルテを作成しています。解体前調査としては、採寸、欠失・損失調査、シミや汚れの箇所を確認し、屏風装から本紙、金物、襲木等を取り外す解装後には、透過光による本紙調査も行いました。約2か月におよぶ調査を経て、損傷図面作成が完了し、本格解体修理が始まりました。



屏風装から本紙を外しているところ

六曲一双の屏風は、各扇6枚の面がありますが、屏風装から本紙を取り外すと12面がバラバラになり、それぞれを1枚の絵としてみると、また違った趣が感じられました。汚れの除去は、柔らかい刷毛等を用いて表面に付着している微塵等の付着物を除去する乾式除去と、イオン交換水を噴霧し水溶性の汚れを吸水紙に吸い取らせる湿式除去があります。水溶性の汚れが除去された本紙は、全体が明るくなりました。



湿式除去の様子

本紙から全体の汚れが除去されたら、次に旧裏打紙、旧肌裏紙、旧補修紙等の除去を行います。経年による劣化の激しい裏打紙の除去は、本紙を傷めないようにピンセットで繊維をめぐりながら慎重に行われ、多くの時間を必要とする作業です。



旧肌裏紙を取り除いている様子

すべての裏打紙が除去されると、いよいよ欠失箇所への補修が始まります。補修紙は、修復事前調査で本紙料紙が竹紙であることが判明したため、竹と楮の混合紙を作製し補修紙としての機能も持たせ欠失箇所すべてに補填しました。併せて、本紙の亀裂箇所への補強も行いました。欠失箇所補修の後には、本紙への裏打ちが行われますが、裏打紙は本紙および欠失箇所補修の色味を考慮し選定されています。

本紙への2層の裏打ち後、補修材を補填した場所については補彩を行いました。補彩は、オリジナル性を損ねるような加筆は行わずに、地色に合わせた補彩に留め、全体の調和を保っています。



裏打ちの様子

解体された屏風で使用されていた、下骨地、襲木、表装裂地等は、経年による汚損破損状態のため、元装を継承し新調することとなりました。裏打ちが終了した12枚の本紙は、下貼りおよび紙蝶番を取付けて完成した屏風下地に貼り込みます。本紙貼り込み後には、表装裂地、裏貼裂を貼り込み、襲木、金物を取り付け屏風装に仕上げます。そして最後に、全体の補彩を調整し修復工房での作業はすべて終了しました。

2年間の修復期間中は、定期的に修復工程の確認のために工房を訪問し、その記録は附属図書館Facebookでも紹介しています。

2019年3月、修復から戻ってきた屏風は、公開用電子画像

データ作成のため高精画像の撮影を行いました。附属図書館の集会室に大型スキャナーを組み立て、全長約7メートルの屏風一対の撮影を行い、普段目にするのしない撮影の様子は、大変興味深く多くの職員も見学しました。



大型スキャナーによる撮影の様子

### 3. 修復完成記念特別公開

2019年4月2日～24日まで、修復完成記念として「筑波大学の至宝 狩野探幽の屏風絵」展を開催しました。本展示では、修復された「野外奏楽・猿曳図」を特別公開するとともに、修復の様子も多数のパネルを使って紹介しました。また、解体された屏風で使用されていたもの、修復の際に使用した道具類も併せて展示しており、現代の古美術修復技術と、美しくよみがえった狩野探幽の名画を楽しむことができる展示となり、会期中には学内外から1,963人が訪れ探幽の屏風絵を観覧しました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2019tanuyu/index.html>

### 4. 今後の課題

筑波大学附属図書館では多くの貴重資料を所蔵しています。今回、幸運にも助成金が獲得でき修復された屏風の他にも、探幽の弟である尚信の屏風も所蔵しています。また、北野神社関係文書等の文書類や古地図類などに代表される貴重な資料も少なくありません。

今後は、大学図書館の貴重な学術資料の保存と公開に対応するため、必要な修復やデジタルアーカイブについて検討し、文化資源の継承を行う必要があると考えています。

50年後、100年後の未来に受け継がれる資料となるように。

(情報企画課主幹 大久保 明美)

参考資料：筑波大学附属図書館所蔵日本美術の名品(2000.5)

### 7. 図書館システム更新

#### 1. 図書館システムの概要

筑波大学附属図書館では2014年3月に導入した図書館システムにおいて、それまでの「知識創造型図書館」のコンセプトを維持しつつディスカバリサービスをはじめとするナビゲーション機能を提供することで、多様な学術情報へのアクセスを実現してきました。

2019年3月のシステム更新では、「学習環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」や「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2020～」等を踏まえ、「知識創造型図書館」のコンセプトを維持しながら、システムの基幹機能を洗練し、利用環境の変化に応じた、より適切で効果的な情報提供機能とナビゲーション機能を用意することで多様な学術情報への的確かつ効率的なアクセスを確保し、学生の豊かな学びと研究者の高度な研究を支援することを目標としました。

図書館システムの内訳としては、図書館利用者へ提供されるWebページや情報検索インターフェイス等の利用者向けWebサービスと、そのベースとなる図書館業務システム、システムを動かすサーバ群や利用者用業務用の端末等で構成されています。また今回のシステム更新の大きな特徴として、これまで中央図書館内に設置されていたサーバ群を、本学学術情報メディアセンターの仮想基盤上に構築したことが挙げられます。

#### 2. Tulips Searchの刷新

今回のシステム更新では、予算の大幅な削減もあり、新規機能を盛り込みにくかったのですが、本学仮想基盤の利用などで経費を抑える一方、利用者が最も多く利用する情報検索ツール「Tulips Search」を刷新し、より使いやすく、より快適なものとする事で、システム更新の特徴を打ち出すこととしました。

Tulips Searchは2014年システムから導入された統合検索ツールで、いわゆるWebスケールディスカバリサービスのツールであるExLibris社Summonを使用することで、図書館蔵書だけでなくWeb上の電子ジャーナル等の多様な情報資源を一元的に検索しアクセスを提供できるようにしたものです。2014年当時は先導的な導入例でしたが、これまでの運用で検索速度や不明瞭な検索対象等に不満の声が寄せられていました。特に検索速度については、ベンダーに対しても継続的に改善を要望し、相当の改善は見られたものの、十分に理想的な体感速度とは言えない部分がありました。

そこで、新システムでは基幹機能の強化として、検索速度の向上を主とした検索インターフェイスの導入を仕様に盛り込み、この点を重視することを明言しました。その結果、新システム全体を株式会社リコーが落札し、新Tulips Searchに当たる検索

インターフェイスについては、公共図書館の横断検索で著名な株式会社カーリルが担当し、共同で開発する運びとなりました。

#### 3. 新Tulips Searchの特徴

新Tulips Searchは、これまでの統合検索ツールSummonのフロントエンドとして、APIを駆使してSummonだけでなく蔵書検索(OPAC)やCiNii、その他、APIを公開している文献情報へアクセスできるデータベースを幅広く検索することで、高速かつ幅広い検索を実現し、また全文情報への到達性を向上させたツールとして完成しました。



新Tulips Search画面例

また、複数のデータベースを一括検索した際にありがちな「同じ文献情報が複数出てくる」問題についてもDOIやISSN、ISBNなど一意のIDを再検索するなどの手法で、高精度な文献同定を行い、重複をできるだけ排除しつつ、複数のソースをまとめて表示する(情報源を明らかにしつつ文献入手の選択肢をできるだけ多数用意する)ことを行っています。その他、掲載誌毎に論文をまとめて表示する機能もあり、一覧性を維持しつつ、絞り込みのための付加情報を追加することができます。

一方で、旧Tulips Searchとは見た目や使い勝手が大きく異なるため、利用者の反発も予想の範疇でした。旧Tulips SearchであるSummonは「Tulips Discovery」として存置し、そちらをご案内することで、利用者の選択肢を減らさないという措置も行っています。

公開が春休み中ということもあり、4月以降も引き続き利用者の声や利用者へ接するサービス担当からの意見を重視しながら、コンセプトを維持しつつインターフェイスの改善を行う必要があると考えています。また本システムの契約期間である5年間を通じて、新Tulips Searchを題材に研究開発室のプロジェクトとして「文献を探す・発見する」と検索インターフェイスの関係を探る取り組みを続けていく予定です。

(デジタルライブラリ係長 嶋田 晋)

## 8. 平成30年度大学図書館職員長期研修(第50回)開催

### 1. 平成30年度大学図書館職員長期研修

2018年7月2日(月)～13日(金)、全国の国公立大学等から31名の受講生を迎え、平成30年度大学図書館職員長期研修を開催しました。

筑波大学主催によるこの研修会は、「全国の大学図書館等の中堅職員に対し、学術情報に関する最新の知識を教授するとともに、図書館経営・情報サービスの在り方について再教育を行い、職員の資質とマネジメント・企画等の能力の向上を図ることにより、大学図書館等の情報提供サービス体制を充実させること」を目的として毎年開催しています。

今回の研修では、「大学経営の課題」(吉武博通 首都大学東京理事)、「大学と大学図書館」(引原隆士 京都大学図書館機構長・附属図書館長)をはじめとする図書館マネジメントについての講義のほか、学術情報流通や研究支援・学習支援等に関する講義として「学術情報コミュニケーションの動向」(佐藤義則 東北学院大学教授)、「大学図書館と研究支援」(池内有為 文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官)、「大学図書館の学習支援」(長澤多代 三重大学准教授)、また、民間企業から講師を招いた「図書館でのクラウドファンディング成功事例」等、幅広いテーマでの講義が行われました。

また、演習として、現状分析や企画立案の手法を学ぶ「新たな取り組みの創出・実践ワークショップ」が行われ、その応用として「『国立大学図書館協会ビジョン2020』(2016年6月公表)の基本理念を達成するための新たな取り組み」をテーマとした班別討議が行われました。活発な討議の結果、図書館のリソースを活用した新たな研究・学習支援、生涯学習支援、学内他部署との連携等、様々な「新たな取り組み」の企画が完成し、発表されました。



ワークショップの様子

### 2. 大学図書館職員長期研修の沿革

今回で第50回を迎えた本研修は、1969年に始めて以降、様々な変更を加えつつも2018年まで毎年欠かさず開講されてきました。当初は国立大学の図書館職員のみが対象でしたが、1972年度からは公立大学・私立大学の図書館職員も対象となりました。各年の受講生は29～45人で、過去50回の間に1,870人も図書館員が受講しています。

本研修は当時の文部省と図書館短期大学との共催で始められ、図書館短期大学から図書館情報大学への移行時期には一旦共催を外れましたが、1981年度からは改めて文部省(文部科学省)と図書館情報大学との共催となり、2002年度まで続きました。

そして図書館情報大学が筑波大学に統合されたことで、2003年度は筑波大学と文部科学省の共催となりました。さらに、2004年度からは筑波大学主催・文部科学省共催、2006年度からは筑波大学の単独主催となって、現在に至ります。

研修の期間も、3週間→4週間→3週間→2週間と移り変わっています。

講義科目は、当初は、参考調査や目録・分類・索引、図書館業務の機械化等の科目に重点が置かれていましたが、情報通信環境や学術情報流通の変化等に伴い、大きく変遷しています。また、2006年度からは、マネジメントや企画等の能力に重点を置いたものとなってきています。



第50回の開催を記念したリーフレット

### 3. 長期研修のこれから

カリキュラム策定にあたっては、受講生のアンケート結果等を参考に、時宜にかなった内容となっているか、現在の大学図書館職員に必要とされる知識・技術は何か、受講生が各大学の図書館運営に活用できる演習はどのようなものであるべきか等、毎年検討を重ねています。

今後は、効果的なカリキュラム内容とともに、各大学から受講生を推薦しやすくなる仕組み等の検討も行い、この研修をさらに充実したものとしていければと思います。

(企画渉外係長 峯岸 由美)

## 農商務省・商工省『工業調査彙報』（復刻版）

### 1. 国際日本研究における基礎資料

今回紹介する『工業調査彙報』は、1920～30年代の「戦間期」と呼ばれる時代に、日本の農商務省や商工省(戦後の通商産業省・経済産業省の前身)が行った国内重要産業および新興産業に関する実態調査報告と海外産業・新技術の動向を収録した文献です。本誌は1923年1月の創刊から、1939年3月の終刊まで、16年間にわたり全72号が刊行されました。

その特徴は、この時期の経済・産業動向を、各産地や企業経営のレベルさらには海外の状況も含めて時系列的に知ることができる点にあります。また、政策の立案・展開に際して、当時の政策担当者がどのような産業を重要産業や新興産業として注目し、どのような基礎データ、情報を得ていたかについて知るうえで参考となります。

その意味で、本資料は、経済史、産業史、経営史、行政・政策史および地域史等の実証研究あるいは近年進められつつある国際日本研究にとって不可欠の基礎資料です。

しかし、これまでは全号を所蔵する公的機関はほとんどなく、その利用がきわめて難しい状況が続いてきました。そうした資料が復刻され、このたび筑波大学附属中央図書館に収蔵されたことで、本学における利活用が容易になりました。

### 2. 『工業調査彙報』の構成と概要

本資料は、[1]調査、[2]彙報、[3]雑録・資料、[4]外国雑誌参考記事によって構成されています。なかでもその柱は[1]で、(1)主要工業概況調査報告、(2)個別調査報告、(3)新興工業概況調査の3つが掲載されています。以下では、これらについて、その概要を紹介します。

まず(1)主要工業概況調査報告は、地方の出先機関からあがってきた7つの主要工業(染織、金属、機械、電機、化学、飲食品、雑工業)の動向を、5つの視点(生産額、採算、生産品の需要・販路、労働力需給、経営・技術上の改良点)から総括し、年1度のペースで発表したものです。

ここでは単なる時系列的な数量変化だけでなく、例えば企業の合同・合併、同業者組合の組織化、株式会社化や製造技術の改善、生産性の向上等について興味深い指摘がされています。

続いて(2)個別調査報告は、(1)とは別に本省が時局柄注目される産業事例に焦点をあて、独自に調査した報告です。今回、本資料復刻版に付けられた「解題」では、掲載された報告全てをピックアップし、7つの主要工業別に分類した表が付けられています。それにより利用者は、関心のある産業について、いつの時期に、どのような調査が実施され、何号にその報告が掲載されているのかが簡単にわかるようになっています。

最後に(3)新興工業概況調査は、1929年の世界大恐慌からの回

復過程で新たに勃興してきた産業や、技術革新により著しく躍進した産業等について調査した報告です。29年恐慌は世界経済に未曾有の打撃を与え、その克服が各国最大の課題となっていました。こうした時期に、日本にどのような産業が芽生えつつあったのかを知るうえで(3)は大変参考になります。

### 3. 『工業調査彙報』の活用事例

以上、3種類の調査を収録する本資料に関して、次にはその具体的な活用の一端を、電球工業を例にとりて紹介します。

同産業に関しては、まず上記(1)の「電気機械器具製造業」あるいは「電球」(1934年以降独立)の項をたどることで時系列的な推移を知ることができます。しかも同報告は、地方からあげられた情報をもとにしていることから、主要生産地域ごとの情報を得ることができるのも魅力の一つです。

そのうえで、(2)の2つの個別調査(1920年代:「本邦の電球工業」、1930年代:「本邦電球工業に関する調査」)が、より掘り下げた詳しい産業情報を提供してくれます。

さらに同産業は、(3)の調査においても取り上げられているので、この時期の新興産業としての情報も得ることができます。

以上のように本資料は、戦間期日本の産業経営の動向を俯瞰したり、多角的に分析したりするうえで有用な資料です。

### 4. 『工業調査彙報』と他資料との連携活用を

最後に、他資料との関連にふれたいと思います。これまで、筑波大学附属図書館には、近現代の日本経済・社会に関する貴重な資料が多く所蔵されてきました。

それゆえ、本学では、『工業調査彙報』で得た基本情報を起点・手がかりとして、さらにこうした資料群にアクセスすることにより、自身の研究を進展させることができます。

例えば、より詳しい企業・工場等のミクロ情報を得たい場合には農商務省『工場通覧』、同『全国工場通覧』および協同会『全国工場鉱山名簿』を、経済・産業政策や商工行政に関する一次情報を得たい場合には『通商政策史オンラインデータベース』を、当時の社会・労働問題や労働・職業行政に関しては協同会史料『日本社会労働運動資料集成』や『糸井文庫』所蔵資料等の本学所蔵資料を活用することをお薦めします。



(人文社会系教授 平沢 照雄)



## 1. オープンアクセスリポジトリ推進協会への出向を振り返って

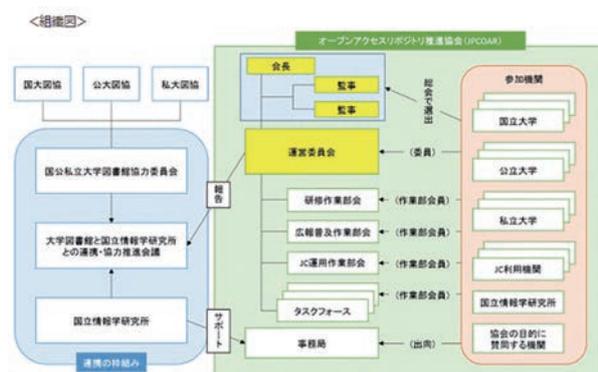
### 1. オープンアクセスリポジトリ推進協会

2017年4月から2019年3月までの2年間、オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)の事務局へ出向しました。

JPCOARは、「リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、わが国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資すること」を目的に掲げ2016年7月に発足した協会です。

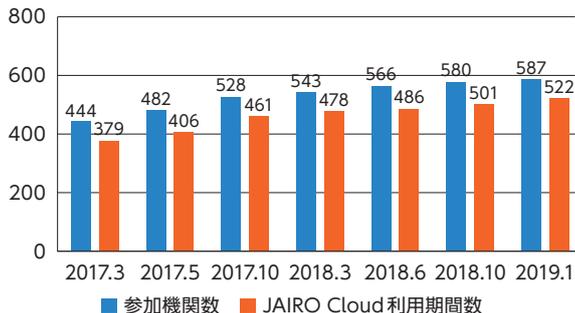
国公立大学をはじめとする国内の学術研究機関が参加しており、出向の間にも100機関程の新規参加がありました。これは、大学やその他の学術研究機関において研究成果を適切に管理公開することが求められているとともに、そうした組織が機関リポジトリの運営に関する情報を必要としていることも示しているといえるでしょう。

れもそれまでに経験した図書館業務とは異なるところが多いものでした。予算の管理や総会をはじめとする各種会議の設営等では、周囲の援助を得ながらの対応でしたが、担当することのなかった庶務業務を経験する良い機会でした。



オープンアクセスリポジトリ推進協会 組織図より

推移



2018年度総会資料より

それまでは本学の機関リポジトリに関する業務を担当し、学内所属者によって執筆された学術雑誌掲載論文等の研究成果をつくり、リポジトリへ登録公開することに従事していました。登録コンテンツの蓄積を維持しながら、またそれらが更なる研究に繋がるような環境の一部となることを目指していましたが、そうした業務を離れ、国としてのオープンアクセス推進を支えることを目指す新しい組織に勤務するには自分自身に準備不足な点も多く、業務の手順や内容の多くは現場で考えながら事務局としての土台を固めていくこととなりました。

### 2. 事務局業務

600近い参加機関とまた、そこから集まった運営委員会とその下で構成される7つの作業部会およびタスクフォースの活動を支えることが事務局の業務です。所属職員は1名ですが、国立情報学研究所(NII)からの支援要員とともに業務にあたりました。

会員情報の管理・各種会議や打合せの準備、会費請求など、いす

### 3. となりのNII

事務局は国立情報学研究所(NII)学術基盤推進部内の図書館連携・協力室に設置されています。同室には大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)があり、JPCOARと同様に大学からの出向者による事務局体制をとっています。こちらは2011年に設立しており、その運営スキルはとても参考になりました。

また、図書館連携・協力室の隣にはNII学術コンテンツ課があり、CiNiiやKAKEN、ERDB-JPやIRDBといった大学図書館ではお馴染みのデータベースのほか、機関リポジトリシステムJAIRO Cloudの構築運営を担当しています。JPCOARはシステム移行相談会の開催や、ユーザーインタビューを受けるなどJAIRO Cloudを共同運営する立場から活動しており、現在は2020年度の次期JAIRO Cloud利用開始に向けNII内で開発が進んでいます。完成を間近で見られないのは残念ですが、ユーザーの要望に十分に応えるシステムとなるであろうことを期待しています。

### 4. 今後の課題

これまでの機関リポジトリは、論文等の成果登録公開を主としますが、研究の場では研究データ等も管理公開の対象として捉えるようになってきました。こうした流れに対してJPCOARが、参加機関の意見を集約し、それぞれの活動成果をオープンアクセス/サイエンスの推進にどう生かせるのか、また、その評価手法を協会として検討することももちろんのこと、各機関が現状を踏まえた展望を考える必要性を感じています。

(オープンアクセスリポジトリ推進協会事務局 船山 桂子)

# 5 職員の活動

## 2. 論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

### 1. 執筆活動

西園由依, 松野渉. 13th International Digital Curation Conference参加報告.

会議名: 13th International Digital Curation Conference  
日程: 2018年2月19日(月)～22日(木)  
会場: NH Collection Barcelona Tower, Barcelona

[JPCOAR \(オープンアクセスリポジトリ推進協会\)](http://id.nii.ac.jp/1458/00000088/)

<http://id.nii.ac.jp/1458/00000088/>

石津朋之. 手仕事でつなぐ本の記憶(図書館司書お薦めの一冊). 茨城新聞. 2018-10-28付9面

概要:  
いせひでこ作「ルリユールおじさん」の書評。

SCHIMMER, Ralf, GESCHUHN, Kai Karin, VOGLER, Andreas, 田村 香代子. (訳)オープンアクセスへの大規模な転換のための購読型ジャーナルのビジネスモデルの破壊: マックスプランクデジタルライブラリ オープンアクセス白書. 大学図書館研究. 2018-09, No.109.

原文:  
Disrupting the subscription journals' business model for the necessary large-scale transformation to open access: A Max Planck Digital Library Open Access Policy White Paper.

[J-STAGE](https://doi.org/10.20722/jcul.2012)

<https://doi.org/10.20722/jcul.2012>

### 2. 講師・事例報告

開催日	氏名	催し名【テーマ・レジュメ・参考URL】
2018.8.9	石津朋之	第61回北海道地区大学図書館職員研究集会 【テーマ】資料費確保を目標に掲げたクラウドファンディングプロジェクトへの取り組み 【資料】 <a href="http://hdl.handle.net/2241/00153527">http://hdl.handle.net/2241/00153527</a>
2018.9.20	松野渉	第4回リサーチアドミニストレータ協議会 セッション1-1 私たちがオープンサイエンスを進めるためにすべきこと 【テーマ】研究データマネジメント教育の必要性 【セッション概要】 <a href="http://www.rman.jp/meetings2018/session.html#1-1">http://www.rman.jp/meetings2018/session.html#1-1</a>
2018.9.21	中原由美子	平成30年度国立大学図書館協会東京地区協会・関東甲信越地区協会合同フレッシュパーソンセミナー 【テーマ】オープンアクセスとリポジトリ 【資料】 <a href="http://hdl.handle.net/2241/00153296">http://hdl.handle.net/2241/00153296</a>
2018.10.31	松野渉	第20回図書館総合展 クラウドファンディングによる図書館の可能性 【テーマ】筑波大学附属図書館におけるクラウドファンディングプロジェクト —READYFOR社との協働— 【資料】 <a href="https://www.libraryfair.jp/forum/2018/6777">https://www.libraryfair.jp/forum/2018/6777</a>
2019.1.29	中原由美子	第4回SPARC Japanセミナー2018 人文社会系分野におけるオープンサイエンス ～その課題解決に向けて～ パネルディスカッションのパネリストとして登壇 【資料】 <a href="https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20190129.html">https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2018/20190129.html</a>

### 3. 職員研修会

2018年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計6回行いました。

日 時 ・ 場 所	講 師	参加人数
<b>2018.9.11 集会室</b>		16名
インターンシップ成果報告・情報交換会	池島由希、藤田和実、西塔祐奈(知識情報・図書館学類3年)	
<b>2018.11.14 集会室</b>		16名
図書館総合展 参加報告会1	木野村和人(利用者支援担当)、中原由美子(リポソトリ担当)、佐藤まみ子(リポソトリ担当)、大久保明美(情報企画課主幹)	
<b>2018.11.16 集会室</b>		16名
図書館総合展 参加報告会2	寺本しほり(目録データベース担当)、松野渉(デジタルライブラリ担当)、根田剛彦(相互利用担当)、渡邊朋子(ラーニングサポート担当)、浅野ゆう子(出版会担当)	
<b>2018.12.11 集会室</b>		部内23名 全体38名
次世代学習スペースを考える—誰もが快適に過ごせる図書館づくり 1 サードプレイスとしての図書館 2 図書館のアクセシビリティ—運動障害を中心に(平成30年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会)	渡和由(芸術系准教授)、名川勝(人間系講師)	
<b>2019.3.6 新館2階会議室</b>		14名
図書館視察報告会 お茶の水女子大学附属図書館 新潟大学中央図書館 筑波技術大学視覚障害系図書館 筑波技術大学聴覚障害系図書館	鈴木秀樹(学術情報部長)	
<b>2019.3.11 集会室</b>		30名
平成30年度附属図書館研究開発室 研究成果報告会	研究開発室室員および協力者	

# 6 トピックス

## 1. サービス・活動

日付	内容
2018.4	毎日新聞データベース「毎索」、読売新聞データベース「ヨミダス歴史館」を導入 IOP Historic Archive 1874-2009 を購入
2018.6.1	学外者貸出利用証の web 申請受付を開始
2018.6.4~6.22	図書館利用者ニーズに関するアンケートを実施 (8.27 に調査結果を公開)
2018.7.2	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの予約制度を開始
2018.7.28	台風 12 号接近のため中央図書館・医学図書館は 18:00 に臨時閉館
2018.8.8	台風 13 号接近のため筑波キャンパスの図書館は 17:00、大塚図書館は 18:00 に臨時閉館
2018.8.11	(体芸・図情図書館) オープンキャンパスの開催に合わせて臨時閉館
2018.8.17~9.28	(中央図書館) 新館の空調工事のため 2 階スタディスペースを一時閉鎖
2018.9.4	台風 21 号接近のため医学図書館は 20:00 に臨時閉館
2018.9.30	台風 24 号接近のため医学図書館は 18:00 に臨時閉館
2018.11.14~12.13	購読雑誌見直しに関するアンケートを実施 (調査結果を学内限定で公開)
2018.11.14~2019.2.6	(中央図書館) エントランスの耐震改修工事を実施 カフェを一時閉鎖
2019.1.10	筑波大学附属高等学校・附属駒場高等学校・附属坂戸高等学校に対し「高大連携図書館サービスパッケージ」(図書資料貸出・レファレンス・文献複写)を提供開始
2019.2.14~3.4	図書館システム更新に伴うサービス・機能の一時停止
2019.3.5	新 "Tulips Search" 公開
2019.3.7	(医学図書館) ラーニングコモンズを設置 (スーパーグローバル大学創成支援事業の一環として)
2019.3.11	研究開発室研究成果報告会を開催

## 2. イベント・セミナー・授業

日付	内容	主催	場所
2018.4.17~7.24	Global Chat <Multilingual> *毎週水曜日に計 13 回開催	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームB
2018.4.18~7.18	Global Chat <Culture> *毎週木曜日に計 11 回開催	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームB
2018.4.19~7.19	Global Chat <English> *毎週金曜日に計 11 回開催	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームB
2018.4.25~3.27	哲学カフェ *毎月第4水曜日(5月のみ第5水曜日、9月は休止)に計11回開催	筑波大学人文社会系哲学・思想専攻	チャットフレームA/C
2018.5.16	芸術専門学群専門科目授業 「日本書道史 I」	担当教員 森岡隆(芸術系)	体芸図書館ラーニング コモンズ「ユーリカ!」
2018.5.17	2018 年度・筑波大学×ベネッセ 共同開発プログラム 「アメリカ西海岸で学ぶ Science and IT海外派遣プログラム」説明会	グローバル・コモンズ機構	チャットフレームC
2018.5.21	福島第一原発事故の避難者の体験を 聞く会、及び意見交換会	Tsukuba for 3.11	チャットフレームC
2018.6.10/7.24/10.2	学生プレゼンテーション	つくば院生ネットワーク	エントランス
2018.6.21	YOGA -TALK & EXERCISE-	Randeep RAKWAL(体育系) / 講師:高橋玄朴	体芸図書館ラーニング コモンズ「ユーリカ!」
2018.6.22/6.29	平成 30 年度 国立台湾大学への短期 研修の準備セッション	グローバルコモンズ機構	チャットフレームB
2018.7.9/2019.3.28	つくばのカルチャー・ラタン	つくば院生ネットワーク	チャットフレームC
2018.7.20	短期留学生向け授業 「プロジェクトワーク日本語 A」	担当教員 関口美緒(グローバル コミュニケーション教育センター)	チャットフレームC
2018.9.28	E-Journal 出版セミナー	URA研究戦略推進室(共催:学術情報 部情報企画課)	集会室
2018.10.1~12.17	大学院共通科目授業「ザ・プレゼン テーション」全 12 回	担当教員 野村港二(生命環境系)	チャットフレームC
2018.10.16/10.17/10.18	学生プレゼンバトル予選	つくば院生ネットワーク	チャットフレームC

日付	内容	主催	場所
2018.11.3~11.4	雙峰祭(筑波大学学園祭)企画 「近未来サイバーフィジカルランド」	図書館情報メディア系宇陀・松村 研究室、附属図書館、ストーリー テリング研究会有志	集会室
2018.11.13	比較文化学類専門科目授業 「テキスト文化学演習Ⅱ」	担当教員 吉原ゆかり(人文社会系)	体芸図書館ラーニング コモンズ「ユーリカ!」
2018.11.15	比較文化学類専門基礎科目授業 「表現文化領域入門演習Ⅲ」	担当教員 吉原ゆかり(人文社会系)	体芸図書館ラーニング コモンズ「ユーリカ!」
2018.11.21/12.12/12.18	東京 2020 大会ボランティア応募に 関する説明会	オリンピック・パラリンピック 総合推進室	チャットフレームC
2018.11.22	プロジェクト√ 多様なキャリアに触れて 自己のルーツを発見するイベント	国際総合学類学生(T-ACT承認企画)	チャットフレームC
2018.11.23	[マンガでトランスポーター Vol.3] 国際的視点でマンガを考える! ケバック ・バンド・デシネ特集シンポジウム	トランスポーターマンガリサーチ グループ、山本美希(芸術系)	体芸図書館ラーニング コモンズ「ユーリカ!」
2019.1.17	短期留学生向け授業 「プロジェクトワーク日本語B」	担当教員 関口美緒(グローバル コミュニケーション教育センター)	チャットフレームC
2019.2.18	2018 BEST FACULTY MEMBER 表彰式	企画評価室	チャットフレームC
2019.2.21/2.28/3.19	研究成果発信力強化に向けた手法検討 ワークショップ	URA研究戦略推進室	チャットフレームC
2019.3.29	おさんぽ Chat ～がんばるを、考える～	日本語・日本語文化学類学生 (T-ACT承認企画)	チャットフレームC

※[5. オリエンテーション・講習会]に掲載のものは除きます。場所は、特記したものを以外は中央図書館での開催です。

### 3. 展示

日付	内容	主催
<b>中央図書館 展示</b>		
2018.4.11~4.25	筑波大学写真部新入生歓迎写真展	筑波大学写真部
2018.4.9~5.9	震災から7年、『僕夏』が見てきた岩手の今。	僕らの夏休み Project
2018.4.26~5.24	各校における研究の取り組み ～平成29年度 筑波大学附属学校の活動～	附属学校教育局
2018.6.14~7.13	あなたにとって大切なものは何ですか?	日本マラウイ学生団体
2018.6.18~7.6	日本で暮らす難民・外国人の教育問題	CLOVER ～難民とともに歩むユース団体～
2018.6.5~6.12	筑波大学写真部新人写真展	筑波大学写真部
2018.9.14~9.28	[インドネシアウィーク連動企画] インドネシア 資料紹介フェア: もっと知りたいインドネシア	国際室、附属図書館(アカデミックサポート課公開・ ボランティア担当)
2018.10.29~11.30	平成30年度附属図書館特別展「グローバル に挑む群像—幕末から明治へ—」	附属図書館、人文社会系
2018.11.2~11.30	学生団体C4の活動内容の紹介、及び過去に 発行したフリーペーパーの展示	学生団体C4
2018.10.1~11.11	「学習支援の本棚」今夜読む本はもう決めた? 大学院生がお届けするめくるめく研究の世界	附属図書館ラーニング・アドバイザー
2018.10.10~10.12	[Diversity Week 2018 連動企画] セクシャルマイノリティ写真展 [OUT IN JAPAN @ 筑波大学]	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター/ 共催: 認定NPO 法人グッド・エイジング・エールズ
2018.10.10~10.12	[Diversity Week 2018 連動企画] BOOK FAIR!	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、 附属図書館(アカデミックサポート課公開・ボランティア担当)
2018.10.22~10.26	オープンアクセスおよびリポジトリに関する ポスター展示	附属図書館(情報企画課リポジトリ担当)
2019.3.11~3.22	平成30年度附属図書館研究開発室研究成果 報告会における発表ポスターの展示	附属図書館研究開発室
2019.3.16~3.19	[スイス歓迎フェア～オリンピックがつくばに やってくる!～ 連動企画] スイス関係資料紹介	オリンピック・パラリンピック総合推進室、附属図書館 (アカデミックサポート課公開・ボランティア担当)

# 6 トピックス

日付	内容	主催
<b>体育・芸術図書館 展示</b>		
2018.4.13~4.27	アンチ・ドーピングとは何か?	渡部厚一(体育系)、日本アンチ・ドーピング機構(共同主催)
2018.5.7~10.31	[壁面マスキングテープアート]線による構成:粗密のリズム	芸術専門学群学生、上浦佑太(芸術系)
2018.5.23~12.5	[UTAC 筑波大学アート・コレクションサテライト展示]白磁壺(石井コレクション)	芸術社会貢献推進室、石井コレクション管理 WG
2018.6.14~10.31	線の集積による半立体表現	博士前期課程芸術専攻学生、上浦佑太(芸術系)
2018.11.2~11.29	[マンガでトランスポーター Vol.3]カナダ・ケベック州アーティストによるバンド・デシネ作品および第2回グラフィック・シェイクスピア・コンペティション優秀作品展示	トランスポーターマンガリサーチグループ、吉原ゆかり(人文社会系)
2018.12.3~2019.3.29	布の伸縮性を活用した半立体構成	芸術専門学群学生、上浦佑太(芸術系)
2018.12.5~	[UTAC 筑波大学アート・コレクションサテライト展示]《TC6106》篠田守男(本学名誉教授)	芸術社会貢献推進室、寺門臨太郎(芸術系)
2019.1.7~	[壁面マスキングテープアート]線の構成	芸術専門学群学生、上浦佑太(芸術系)
<b>医学図書館 展示</b>		
2018.5.7~5.25	アンチ・ドーピングとは何か?	渡部厚一(体育系)、日本アンチ・ドーピング機構
2018.10.9~10.31	看護実習に役立つ本	附属図書館(医学図書館)
<b>図書館情報学図書館 展示</b>		
2018.7.2~8.31	卷子本の世界(図書学入門 その1:卷子本編)	附属図書館(図情図書館) / 共催: 図書館情報メディア系綿抜研究室、同時井研究室
2018.7.12~9.30	KLC チューター推薦図書	KLC(春日ラーニングcommons)、附属図書館(図情図書館)
2018.7.27~9.24	長谷川町子生誕100周年記念ミニ展示 サザエさん	附属図書館(図情図書館)
2018.11.26~2019.1.18	暦を読む	図書館情報メディア系綿抜研究室、知識情報・図書館学類 / 共催: 附属図書館(図情図書館)
2018.11.26~2019.1.18	暦を読む 連動企画ミニ展示「暦の本」	同上
2019.2.1~3.25	暦を読む 第2期	同上
2019.3.8~3.15	旅するアジャイル本箱	渡辺知恵美(図書館情報メディア系)

## 4.見学・来訪者

日付	内容
2018.4.16	ベトナム国家ホーチミン校附属高校学生団 7名
2018.5.16	タイ マヒドン大学一行 6名
2018.7.19	オハイオ州立大学 7名
2018.11.27	インドネシア パダン市一行 16名
2018.12.18	モスクワ市立大学 11名
2018.12.20	ロシア トムスク国立大学 2名
2019.1.29	中国 西南交通大学 20名
2019.2.5	中国 宜昌市夷陵中学 高校2年生 20名
2019.3.1	独立行政法人日本スポーツ振興センター一行 3名
2019.3.11	ロシア教育関係一行 12名

※全113件(11,258名)から抜粋したものです。

## 5.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション(学群生)	5回	2,808名
新入大学院生オリエンテーション(院生)	7回	324名
留学生オリエンテーション	9回	144名
新任教員オリエンテーション	2回	20名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	1回	1名
論文の探し方講習会	30回	309名
自由テーマオリエンテーション	15回	62名
科目関連指導	69回	2,914名
(内訳) フレッシュマンセミナー(各学類等)	47回	2,018名
日本語・日本文化学類 フレッシュマンセミナー応用編	1回	46名
理療科教員養成施設新入生向け 論文の探し方講習会	1回	17名
リハビリテーションコース新入生向け講習会	1回	24名
授業「国語Ⅲ」春学期2コマ分を担当	2回	157名
授業「基礎化学実験」春学期2コマ分を担当	2回	114名
授業「看護学研究法」春学期2コマ分を担当	2回	43名
授業「看護学の探求」春学期1コマ分を担当	1回	9名
授業「知識情報特論I」春学期2コマ分を担当	2回	221名
授業「アーカイブズ構築」春学期1コマ分を担当	1回	25名
授業「知の探検法」秋学期9コマ分を担当	9回	240名
その他	6回	131名

日 付	内 容	講 師	参加者数
<b>ライティング支援連続セミナー</b>			
2018.4.19	良い論文を書くには 論文投稿の基礎：ハゲタカ出版者 (Predatory Publisher) に気をつけて	逸村裕 (図書館情報メディア系)	15名
2018.4.26			16名
<b>ライティング支援連続セミナー レポート作成基礎編</b>			
2018.4.25	疑うことから始めよう：批判的に読む	島田康行 (人文社会系/アドミッションセンター長)	37名
2018.5.9	文書の目的を理解する:レポートvs論文 付:引用入門 文章を構成する	三波千穂美 (図書館情報メディア系)	32名
2018.5.17			25名
2018.5.23	論理的に書く	田川拓海 (人文社会系)	17名
2018.5.30	レポートのコツ：図表の表現	野村港二 (生命環境系)	9名
2018.6.6	レポートのコツ：「事実」と「意見」を区別する		9名
2018.6.13	最終回：さあ、「良いレポート」を書こう!	五十嵐沙千子 (人文社会系)	11名
<b>LA(ラーニング・アドバイザー)セミナー</b>			
2018.10.10	今からでも間に合う!卒論セミナー!!	植原督詞、中村憲史、川上若奈 (附属図書館ラーニング・アドバイザー)	43名
<b>その他の研究・学習支援企画</b>			
2018.5.10	セミナー「博士論文インターネット公表の基礎知識」	佐藤まみ子、中原由美子(リポジット担当)	6名
2018.5.11			16名
2018.8.7	著作権に関するワークショップ(芸術系)	根田剛彦(相互利用担当)、佐藤まみ子(リポジット担当)、 大原央聡(芸術系)	25名
2018.12.10	平成30年度SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール) シリーズセミナー「メディア虎の穴」 第2回 学術情報の探し方 (筑波大学附属駒場中・高等学校)	渡邊朋子(ラーニングサポート担当)	21名
2018.12.21	著作権法の一部改正に係る説明会	南亮一(国立国会図書館関西館アジア情報課)、 村井麻衣子(図書館情報メディア系)	86名
2019.2.18	講演会「オープンアクセスの今と未来」	逸村裕(図書館情報メディア系)、林正治、尾城孝一、 山地一禎(国立情報学研究所オープンサイエンス基盤 研究センター)	89名

# 6 トピックス

## 6. 研修・シンポジウム

日付	内容
2018.6.27/7.4/7.11/9.5 /11.21/11.28 2019.1.30/2.6	職場体験学習（筑波大学附属大塚特別支援学校高等部 2名）
2018.7.2~7.13	平成30年度大学図書館職員長期研修（受講生 31名）
2018.7.26/7.31/8.2	職場体験（つくば市内中学校 3校 10名）
2018.8.29~9.11	インターンシップ（筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類 3名）
2018.12.11	平成30年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会「次世代学習スペースを考えるー誰もが快適に過ごせる図書館づくり」（参加者 38名）
2019.2.13	インターンシップ（釜山大学校 文献情報学科 6名）

## 7. 会議

日付	内容
2018.5.29/2019.3.26	附属図書館研究開発室運営会議
2018.5.31/7.26/9.19/11.26/2.22	附属図書館運営委員会
2018.6.7/9.7/2019.2.12	附属図書館収書専門委員会
2018.7.6/12.5	附属図書館ボランティア専門委員会
2018.11.7/2019.3.7	附属図書館オープンアクセス専門委員会
2018.10.23/11.11	附属図書館情報環境委員会
2018.8.27/2019.2.20	附属図書館リスクマネジメント専門委員会
2018.6.27/9.5/11.13/2019.1.25/2.13	次世代学習スペース整備検討タスクフォース

## 8. 研究開発室

プロジェクト名	担当室員 / 協力者
1. ラーニングコモンズにおける学習支援活動の検討	逸村裕(図書館情報メディア系)、野村港二(生命環境系)、島田康行(人文社会系・アドミッションセンター) / 三波千穂美(図書館情報メディア系)、五十嵐沙千子(人文社会系)、田川拓海(人文社会系)、学習支援推進WG(附属図書館)
2. 情報探索行動の分析	逸村裕(図書館情報メディア系) / 辻慶太、松村敦(図書館情報メディア系)、池内有為、小林俊貴、村田龍太郎、李皓(図書館情報メディア研究科)、武富一起(知識情報・図書館学類)
3. 図書館への応用可能性を探るクラウドソーシング実証実験	森嶋厚行(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 池田光雪(千葉大学アカデミック・リンク・センター)、岩本英一(システム情報工学研究科)、利用者支援担当(附属図書館)
4. 附属図書館における貴重資料の保存と公開	
① 附属図書館所蔵屏風の発ガス物質の除去2	松井敏也(芸術系) / 永濱恵理子(附属図書館)、篠塚富士男(國學院大學 栃木短期大学)
② 附属図書館における貴重書・和装古書の公開と基礎的研究	山澤学(人文社会系)、谷口孝介(人文社会系) / 特別展WG(附属図書館)
5. 附属図書館の将来構想の検討	鈴木秀樹(学術情報部)、谷口孝介(人文社会系)、逸村裕(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系) / 学習支援推進WG(附属図書館)
6. 図書のロバスト性評価法の確立	江前敏晴(生命環境系)、逸村裕(図書館情報メディア系) / 望月有希子(生命環境系)
7. 利用スタイルに適合した次期図書館システムの検討	高久雅生(図書館情報メディア系)、宇陀則彦(図書館情報メディア系)、鈴木秀樹(学術情報部) / 嶋田晋、高橋雅一、松野涉、大和田康代、木野村和人、上村悠、平田完(附属図書館)
8. オープンサイエンス実現のための実態調査	逸村裕(図書館情報メディア系) / 池内有為(図書館情報メディア研究科)
9. 図書館での音響効果調査	逸村裕(図書館情報メディア系)、善甫啓一(システム情報系) / 寺澤洋子(図書館情報メディア系)、社本和磨(図書館情報メディア研究科)、河村あかね(人間総合科学研究科)

# メディアにみる 附属図書館

図情図書館ミニ展示「サザエさん」

## 1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2018.4	TSUKU COMM	雑誌	特集2 図書館が呼んでいる
2018.4.14	常陽リビング	新聞	明治の笑いと風物、戯画で表現 浮世絵師・昇斎の「東京名所浮世絵三十六戯撰」
2018.4.14	文教ニュース	雑誌	筑波大学出版会 10周年記念 山海嘉之先生出版記念講演会
2018.4.23	文教速報	雑誌	筑波大出版会10周年記念「山海嘉之先生出版記念講演会」を開催
2018.5.21	筑波大学新聞	新聞	ドーピング問題訴える 体芸・医学図書館で展示
2018.7.17	筑波大学新聞	新聞	図書館に彩り マスキングテープで壁面展示
2018.8.8	文教速報	雑誌	大学図書館職員長期研修を開催(筑波大)
2018.8.13	文教ニュース	雑誌	＝筑波大学＝ 平成30年度大学図書館職員長期研修
2018.12.5	カレントアウェアネス-R	web	世界レポートランキングの2018年11月版が公開 ※筑波大学のレポートリは131位、日本の大学図書館の中で6番目
2018.12.17	文教ニュース	雑誌	＝筑波大学附属図書館＝ 特別展「グローバルに挑む群像」
2018.12.26	文教速報	雑誌	筑波大図書館で「幕末から明治へ」展
2019.1	TSUKU COMM	雑誌	附属図書館特別展「グローバルに挑む群像 一幕末から明治へ」
2019.3.5	カレントアウェアネス-R	web	筑波大学附属図書館、「Tulips Search」をリニューアル
2019.3.29	山崎 久道・原田 智子 編著 『改訂 情報サービス論(現代図書館情報学シリーズ5)』(樹村房)	書籍	「6章 発信型情報サービスの展開」に「筑波大学附属図書館ラーニング・スクエア ☆学習支援の本棚」を事例として掲載

## 2.筑波大学附属図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2017年度
筑波大学附属図書館研究開発室年次報告2017
平成30年度附属図書館特別展 グローバルに挑む群像 一幕末から明治へ(図録)
Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)
No.96 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2018
No.97 引用文献・参考文献をきちんと書こう 引用文献って何? どうやって書けばいいの?—
No.98 2018年度LAセミナー ダイジェスト「今からでも間に合う! 卒論セミナー!! ～内容(なかみ)も体裁(みため)も大切に～」
No.99 LA企画『今夜読む本はもう決めた? 大学院生がお届けするめくるめく研究の世界』



## 3.筑波大学出版会の刊行物

発行日	タイトル	著者
2018.7.31	もっと知りたい!!「科学の芽」の世界 PART6	永田恭介 監修 / 「科学の芽」賞 実行委員会 編
2019.3.6	蟲(むし)愛(め)づる人の蟲がたり	筑波大学山岳科学センター菅平 高原実験所 編 / 町田龍一郎 監修

# メディアにみる附属図書館

## 4. 出版・放映・web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2018.5.2	出版	和装古書	江戸名所記 他2点	ネ306-148 他	10076904081 他	開館20周年特別展「隅田川花火の390年」図録、展示パネル(すみだ郷土文化資料館)
2018.5.18	出版	和装古書	本朝百將傳 他14点	タ430-62 他	10076857747 他	企画展「藤原秀郷一源平と並ぶ名門武士団の成立」図録、ポスター等(栃木県立博物館)
2018.6.14	放映	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等	ヘ950-宮197	10088015217	テレビ東京「出没!アド街ック天国」(6月23日放映)
2018.6.29	出版	和装古書	學制一覽	ホ610-宮49	10088013535	尾上雅信編『西洋教育史』(ミネルヴァ書房)
2018.7.3	出版	和装古書	浪華往古図	ネ040-597	10076904336	『大坂の教科書 ビジュアル入門編』(創元社)
2018.7.5	出版	和装古書	調布玉川惣畫圖	ネ304-47	10076904663	企画展「調布玉川惣画図の旅」図録(パルテノン多摩歴史ミュージアム)
2018.7.17	放映	和装古書	駿府政事録 巻1-3	ヨ380-202	10076853202	NHK総合「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」(8月9日放映)
2018.8.31	出版	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等 2	ヘ950-宮197	10088015217	企画展「文明開化のカーわたしたち、江戸時代を卒業します!」図録等(千葉県立関宿城博物館)
2018.9.10	放映	貴重書	北野社家日記：天正十九年自閏正月至三月	北野社	10003015182	NHKBSプレミアム「偉人たちの健康診断 千利休」(10月24日放映)
2018.11.29	出版					中村修也著『千利休 切腹と晩年の真実』(朝日新書)
2018.11.20	放映	和装古書	萬世御江戸繪圖	ネ040-646	10076904356	日本BS放送「歴史科学捜査班」(12月24日放映)
2018.12.4	放映	教科書	しょうがっこうこくご 6年下	375.98-Sh27 -2-54-6	10002605563	NHK総合 年始特番「いだてんが駆け抜けた時代」(2019年1月4日放映)
		一般書	Tokyo : sports center of the Orient	780.69-To46	10016009765	
2019.1.23	出版	貴重書	Joan. Amos. Comenii Orbis pictus	E100-c92	10076344222	金井香里他著『子どもと教師のためのカリキュラム論』(成文堂)
2019.2.8	出版	和装古書	家屋雑考 巻1	ア700-2	10076896354	赤澤真理著『御簾の下からこぼれ出る装束-王朝物語絵と女性の空間-』(平凡社)

※全40件から抜粋したものです。

## 1. 2018年度ボランティア構成

●男性：8 ●女性：40 計48名

〈年齢内訳〉

●40代：4 ●50代：11

●60代：22 ●70代：10 ●80代：1

●新規活動者4名 ●更新活動者44名

## 2. 活動統計

### 1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,026人

(学内者：837人 学外者：189人)

●図書館見学案内 90件 4,081人

●対面朗読 198時間

### 2 利用環境整備

●シェルフリーディング書架数 3,564連

●ラベル補修 934冊

●図書修理冊数 1,577冊

(中央図書館：1,059冊 体芸図書館：518冊)

### 3 体芸図書館ポスター整理 334枚

## 3. 年間行事

### 1 フォローアップ研修

●学内施設見学(体育総合実験棟)7月

アスリートの競技力向上や、スポーツパーソンのスポーツライフをサポートするための施設を見学しました。

●学外施設見学(国立公文書館東京本館)11月

公文書館の説明を受けた後、書庫や修復室を見学しました。

修復作業の見学では熱心な質問も数多く出て、今後の活動の参考となりました。



国立公文書館東京本館見学

●ミニレクチャー 3月

①新OPACについて(レファレンス担当 守谷係長)

②障害学生支援サービスについて

(公開・ボランティア担当 飯田係長)

### 2 ボランティア懇談会 11月

1年間のボランティアの活動報告、館長との意見交換等

### 3 ボランティア講演会 11月

「聖徳太子伝承と聖遺物」(谷口孝介 人文社会系 教授)

### 4 意見交換会

●特殊資料整理意見交換会 7月

## 4. 各種活動

### 1 見学案内

留学生を含む新入生、キャンパスツアーで来学した高校生、協定大学の教職員・学生を含む海外からのお客様など様々な来館者にそれぞれに応じた見学案内を年間約90回行いました。海外からのお客様には英語をはじめ、インドネシア語や中国語、ロシア語での案内をし、好評をいただいております。



### 2 図書修理活動

図書の背や表紙が外れたり、ページが破れてしまった資料を修理する活動です。元の形をできるだけ残し、資料を傷めない修理を心掛けています。

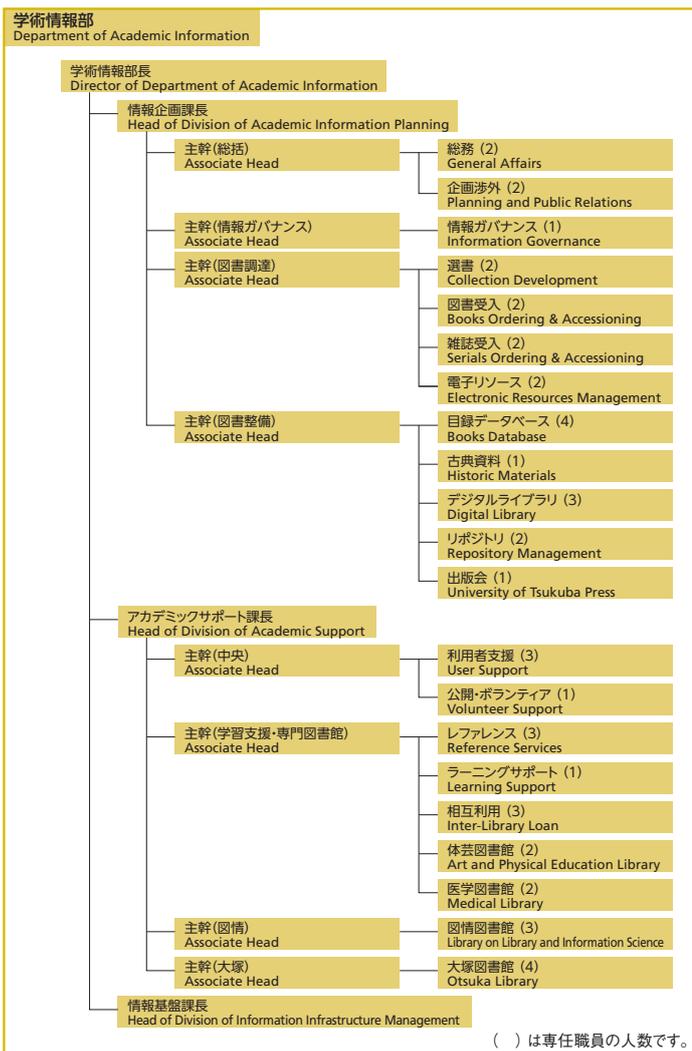
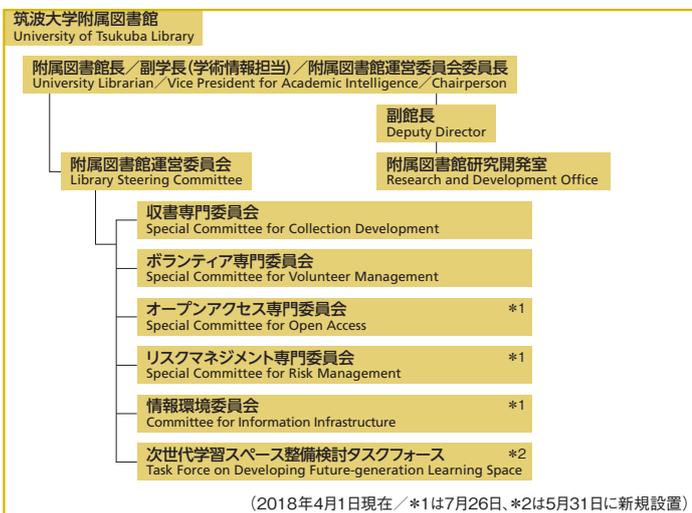
### 3 日本文化紹介

留学生に日本文化を紹介するための「おりがみ講習会」を7月、12月、2月の3回実施しました。季節に合わせたテーマでクリスマスリースやおひなさまを作りました。開催時には、本学の学生だけでなく、来日中の教員・学生なども参加し、会話も楽しみながら和気あいあいとした雰囲気の会となりました。

(公開・ボランティア係長 飯田 貴子)

# 組織図・歴代図書館長

## 1. 組織図

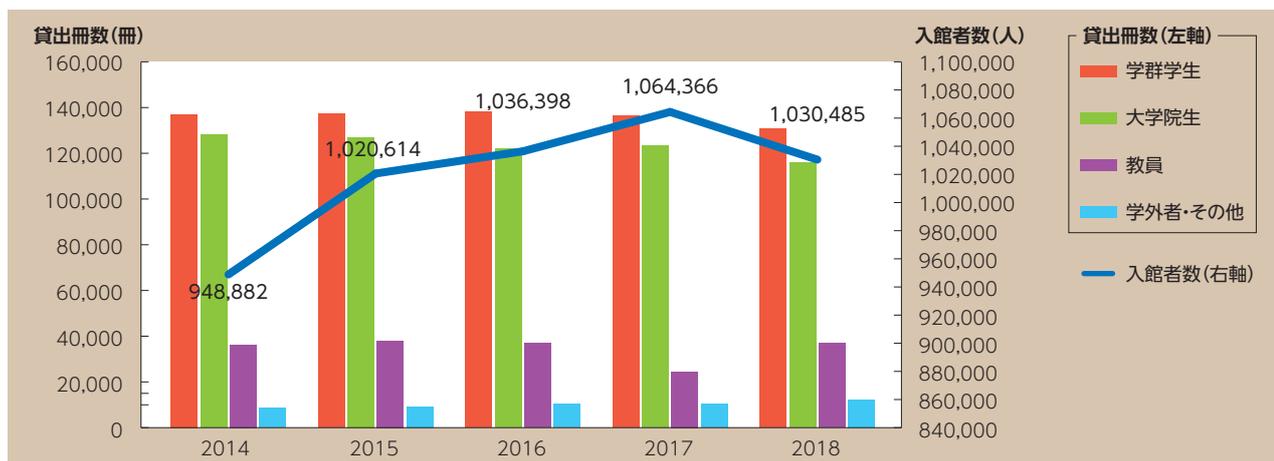


## 2. 歴代図書館長

	氏名	期間	備考
高等師範学校・	三宅 米吉	明治32年6月30日 ~ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ~ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日 ~ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ~ 昭和7年3月3日	
	諸橋 轍次	昭和7年3月4日 ~ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ~ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ~ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日 ~ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日 ~ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ~ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ~ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ~ 昭和38年3月31日	
	山崎 定	昭和38年4月1日 ~ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ~ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ~ 昭和44年3月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ~ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日 ~ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日 ~ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ~ 昭和51年3月31日	
	西谷三四郎	昭和51年4月1日 ~ 昭和53年3月31日	
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日 ~ 昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日 ~ 昭和50年4月1日	
	大饗 茂	昭和50年4月2日 ~ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日 ~ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日 ~ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日 ~ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日 ~ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日 ~ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日 ~ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日 ~ 昭和62年6月8日	
	柳沼 重剛	昭和62年6月9日 ~ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日 ~ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日 ~ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日 ~ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日 ~ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日 ~ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日 ~ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日 ~ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日 ~ 平成24年3月31日	
	中山 伸一	平成24年4月1日 ~ 平成28年3月31日	2期
	西川 博昭	平成28年4月1日 ~ 平成30年3月31日	
	阿部 豊	平成30年4月1日 ~	

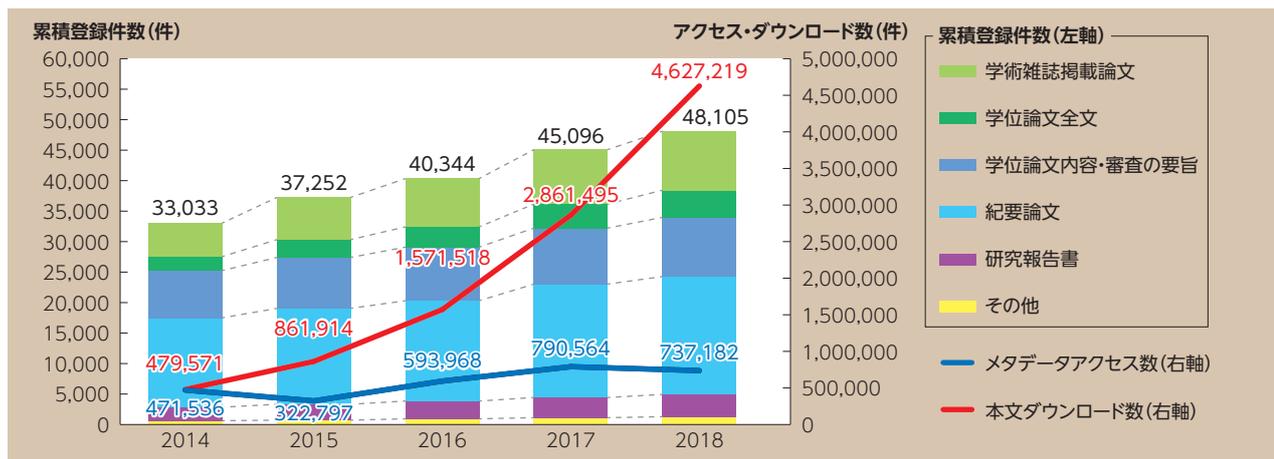
### 1. 推移と分析

#### 利用サービスの推移



利用傾向として、貸出については年間約30万冊と一定しており、2018年度は前年から微増となっています。入館者については、中央図書館の空調修理やエントランス天井耐震改修工事の影響もありましたが、例年通り100万人以上となっています。開館時間の延長、各図書館のラーニングcommons設置、館内飲食ルールの見直し等、サービスの拡充を図ってきた結果、学習の場としての利用が定着していることが伺えます。今後も利用者の多様なニーズや学習スタイルの変化に対応すべく、さらなるサービス向上を目指していきます。

#### つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2017年度に引き続き、学内紀要の刊行状況調査を実施し、登録推進を図りました。これにより、バックナンバーを含めての登録件数は順調に増加しています。DOIを付与した学内紀要は人文社会系を中心に2600件を超え、登録された学術情報がより有意義に活用されることが期待されます。また、学術雑誌掲載論文については、「筑波大学オープンアクセス方針(2015年)」及び「筑波大学オープンアクセス方針実施要領(2018年)」に基づき、登録を進めています。なお、2019年3月から本学研究者総覧「TRIOS」とつくばリポジトリの連携が強化され、今後は「TRIOS」からつくばリポジトリへのアクセス数の増加も期待されます。

## 2.利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計
年間開館日数 (日)	平日	239	239	239	247	247	—
	土・日・祝日	113	78	113	115	117	—
	合計	352	317	352	362	364	—
入館者数(人)	平日	510,571	96,850	137,015	54,705	52,083	851,224
	(学外者 内数)	20,276	1,822	3,603	3,244	20,578	49,523
	土・日・祝日	94,365	11,317	27,567	7,333	38,679	179,261
	(学外者 内数)	9,500	540	2,349	1,808	13,050	27,247
	合計	604,936	108,167	164,582	62,038	90,762	1,030,485
	(学外者 内数)	29,776	2,362	5,952	5,052	33,628	76,770
平均入館者数(人)	平日	2,136	405	573	221	211	—
	(学外者 内数)	85	8	15	13	83	—
	土・日・祝日	835	145	244	64	331	—
	(学外者 内数)	84	7	21	16	112	—
	1日当たり	1,718	341	467	171	249	—
	(学外者 内数)	84	7	16	13	92	—
貸出冊数(冊)	学群生	93,263	14,468	12,323	9,845	696	130,595
	院生	83,737	13,022	4,282	5,193	9,785	116,019
	教員	23,349	4,619	3,292	2,360	3,426	37,046
	学外者	7,461	624	644	1,111	1,938	11,778
	その他	558	4	0	0	0	562
	合計	208,368	32,737	20,541	18,509	15,845	296,000
貸出利用者数(人)	学群生	41,209	6,511	6,355	4,708	362	59,145
	院生	28,571	4,783	1,910	1,897	4,456	41,617
	教員	5,627	793	1,042	716	856	9,034
	学外者	2,668	269	272	481	868	4,558
	その他	20	1	0	0	0	21
	合計	78,095	12,357	9,579	7,802	6,542	114,375
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	3,357	566	2,148	232	1,391	7,694
	学外提供	1,777	266	394	63	99	2,599
	合計	5,134	832	2,542	295	1,490	10,293
相互貸借(図書) (件)	学外借受	1,169	59	14	75	241	1,558
	学外貸出	2,017	259	75	92	115	2,558
	合計	3,186	318	89	167	356	4,116
レファレンス件数(件)	学生	6,271	1,374	590	604	3,490	12,329
	教職員	3,204	262	2,467	154	654	6,741
	その他	1,315	53	28	362	1,451	3,209
	合計	10,790	1,689	3,085	1,120	5,595	22,279
	資料に関するもの	7,961	991	2,983	173	3,091	15,199
	利用案内・指導 事実に関するもの	2,787	698	102	936	2,504	7,027
合計	42	0	0	11	0	53	
合計	10,790	1,689	3,085	1,120	5,595	22,279	

### webコンテンツアクセス数

webサイトアクセス件数	件
学内	386,329
学外	841,177
合計	1,227,506

※システム更新のため2・3月に各1週間程度未集計期間あり

つくばリポジトリアクセス件数	件
メタデータアクセス数	737,182
本文ダウンロード数	4,627,219

主要な電子ジャーナルフルテキストアクセス件数	件
Cambridge Journals Online	7,738
JSTOR	39,433
Nature	210,992
Oxford Journals	60,214
ProQuest Central	141,629
Science	36,316
ScienceDirect	763,001
SpringerLink	133,641
Wiley Online Library	179,146

主要なデータベースアクセス件数(サーチ数)	件
Business Source Complete	6,493
InCites-Journal and Highly Cited Data	14,935
Lexis Advance	3,638
Oxford English Dictionary	1,796
ProQuest Central	24,885
SciFinder	100,383
Web of Science	153,773
医中誌Web	70,756

主要な電子ブックアクセス件数	件
Cambridge University Press	1,406
ProQuest Ebook Central	10,799
Maruzen eBook Library*	3,453
NetLibrary*	1,124
Springer	142,712
Wiley Online Library	7,207

\* タイトルアクセス数(その他はセクションアクセス数)



皆様のご利用をお待ちしています

### 3. 基盤統計

#### 施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計
建物面積(m <sup>2</sup> )	19,330	3,518	2,793	2,848	1,552	30,041
座席数(席)	1,138	369	340	254	132	2,233
利用者用PC台数(台)	148	62	70	32	24	336

(※2018年度末現在)

#### 図書

(冊)

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合計
年度受入 冊数	(和洋区分) 和書	9,981	2,418	974	2,126	1,158	16,657
	洋書	2,129	246	79	282	149	2,885
	合計	12,110	2,664	1,053	2,408	1,307	19,542
	(受入区分) 購入	6,549	1,261	828	850	941	10,429
	寄贈	4,589	1,118	172	1,416	243	7,538
蔵書冊数	製本	952	282	53	140	120	1,547
	その他	20	3	0	2	3	28
	合計	12,110	2,664	1,053	2,408	1,307	19,542
	(和洋区分) 和書	1,121,309	199,685	93,252	183,699	53,576	1,651,521
	洋書	796,577	68,563	80,589	74,065	26,814	1,046,608
合計	1,917,886	268,248	173,841	257,764	80,390	2,698,129	

#### 雑誌(冊子)

内訳	年度受入タイトル数			所蔵 タイトル数
	購入	寄贈	計	
和雑誌	787	6,520	7,307	17,558
洋雑誌	442	988	1,430	12,889
合計	1,229	7,508	8,737	30,447

#### 提供データベース・検索ツール

##### ●主要契約データベース

データベース名
Business Source Complete
CINAHL
D1-Law.com
InCites-Journal and Highly Cited Data
Lexis Advance
MLA International Bibliography
Oxford English Dictionary
ProQuest Central
PsycINFO
SciFinder (Academic)
Ulrichsweb
Web of Science
Westlaw Japan
医中誌Web
聞蔵IIビジュアル
雑誌記事索引集成データベース
ジャパンナレッジLib
日経テレコン21
毎索
ヨミダス歴史館

#### つくばリポジトリ 累積登録件数 (※2018年度末現在)

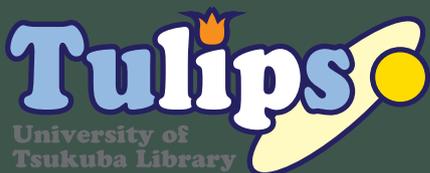
内訳	件数
学術雑誌掲載論文	9,665
学位論文全文	4,464
学位論文内容審査の要旨	9,702
修士論文	273
紀要論文	19,337
研究報告書	3,651
会議発表資料	405
講義資料	108
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	95
A-LIEP	64
その他(図書)	318
合計	48,105

#### 電子ジャーナル契約タイトル数 (※有料契約のみ)

内訳	タイトル数
Cambridge Journals Online	390
JSTOR	962
Nature	31
Oxford Journals	260
ProQuest Central	19,500
Science	1
ScienceDirect	2,320
SpringerLink	1,605
Wiley Online Library	1,403
その他	6,284
合計	32,756

#### 電子ブック契約タイトル数 累積数 (※2018年度末現在)

内訳	タイトル数	
	和	洋
Cambridge University Press	—	1,669
ProQuest Ebook Central	—	559
Maruzen eBook Library	1,060	172
NetLibrary	490	1,028
Springer	—	25,417
Wiley Online Library	—	1,125
その他	19	3,691
合計	1,569	33,661



## 筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1  
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052  
voice@tulips.tsukuba.ac.jp  
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

# 18

令和元(2019)年5月31日発行  
デザイン印刷：マザータンク